

第Ⅲ部 川崎遺跡第16次の調査

I 本調査に至る経過と概要

川崎遺跡第16次の調査地点は遺跡範囲のほぼ中央部に位置する。本地点の北側約50mのところには、8世紀後半～9世紀の住居跡13軒が確認された第1次・第15次・第31地点がある。さらに、西側には9世紀代の住居跡7軒を確認した第3次・第18次が隣接し、9世紀代の集落が集中する地域である。また、古代より数は減少するが、縄文時代の住居跡についても、本地点の周辺より多数発見されている。

調査は駐車場及び資材置場敷設に伴うもので、平成7年12月4～8日に旧上福岡市教育委員会で試掘調査を実施した。2m間隔でグリッドを設定し、一区画置きに人力で表土除去及び遺構面精査を行った。遺構確認面までの深さは約40～50cmであったとされる。表土中より縄文時代前期の土器片や須恵器の破片などが多く見られたため、12月7日に重機による遺構確認に切り替えた。その結果、縄文時代住居跡、古代住居跡、井戸等複数の遺構を確認した。原因者と協議の結果、保護層の確保が困難なため、原因者負担による本調査を実施した。

本調査は遺跡調査会を設置して、平成7年12月11日～平成8年3月8日まで実施した。調査の結果、縄文時代の大型住居跡1軒を含む住居跡が3軒、古代住居跡4軒、古代掘立柱建物跡6軒、中世と考えられる竪穴状遺構1基、土坑、井戸を検出した。

本地点はこれまでに正式に報告書は刊行されておらず、上福岡市史等に断片的に報告されてきたのみである。ある程度まとまった報告の必要性を感じ、今回は古代・中世について報告することとした。なお、標高については当時の記録が不十分な為、今回の報告では記載していない。

【参考文献】

柳沢健司 1996 『郷土資料第47集 埋蔵文化財の調査(18)』 上福岡市教育委員会



第 87 図 川崎遺跡古代住居跡分布図 (1/2,500)

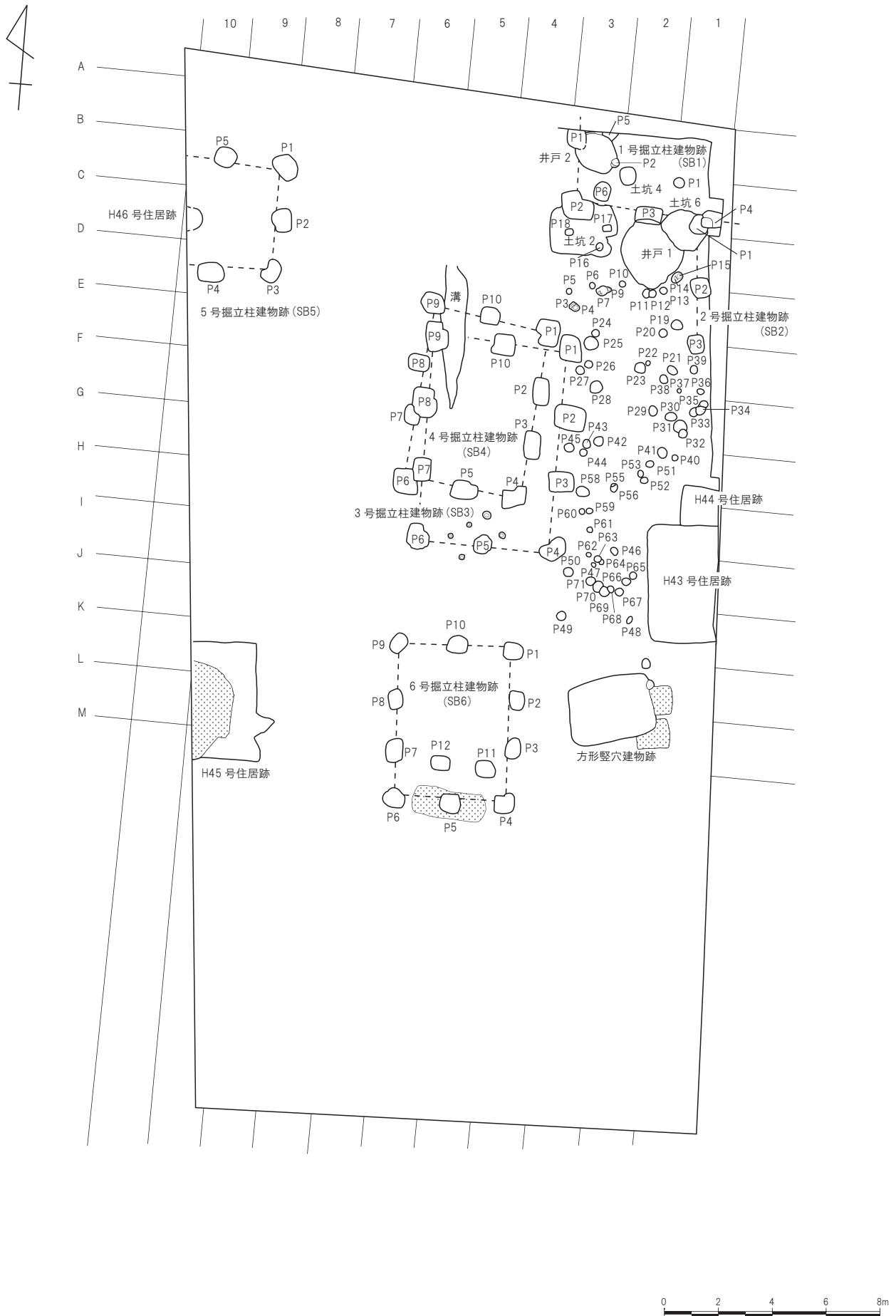
第 53 表 川崎遺跡古代住居跡一覧表 (単位 cm)

住居 番号	調査 年度	調査名	調査率	平面形 () は推定	規模	炉 K (竈)	設 置 壁	電 規模	周 溝	主軸方位	時期	備考	所収報告書
1	1974	第 1 次 LN72	完掘	隅丸方形	760 × 730 × 40	地床 炉		60 × 50	○	N-60-E	3C 終末	市指定文化財 8 住と重複	川崎 1 次、市史資 I
2	1974	第 1 次 LN05	完掘	長方形	390 × 320 × -	K		-	○	N-5-E	国分	4 住と重複	川崎 1 次、市史資 I
3	1974	第 1 次 LN06	完掘	歪んだ 方形	320 × 320 × -	K	東	-		N-13-W	9C 4 半期	4 住と重複	川崎 1 次、市史資 I
4	1974	第 1 次 LN07	完掘	方形	320 × 320 × -	K	東	80 × 90	○	N-83-W	9C 中葉	2・3 住と重複	川崎 1 次、市史資 I
5	1974	第 1 次 LN24	完掘	長方形	470 × 340 × 50	K	北	120 × 75	○	N-5-E	10C 1 半期		川崎 1 次、市史資 I
6	1974	第 1 次 LN25	完掘	方形	320 × 300 × -	K	北	40 × 40		N-42-E	9C 1 半期	7 住と重複	川崎 1 次、市史資 I
7	1974	第 1 次 LN28	西側未掘	(長方形)	- × 300	K	東	50 × 60	○	N-69-W	9C 3 半期	6 住と重複	川崎 1 次、市史資 I
8	1974	第 1 次 LN71	1/4	(長方形)	- × 600			-	○	-	国分	1 住と重複	川崎 1・2 次
9	1975	第 2 次 LN75	1/4	(長方形)				-		-	国分		川崎 2 次、市史資 I
10	1975	第 2 次 LN92	1/4	隅丸 長方形				-		-	国分		川崎 2 次、市史資 I
11	1975	第 2 次 LN72	完掘	隅丸方形	250 × 250 × 13	K	南	50 × 80		N-18-E	国分		川崎 2 次、市史資 I
12	1975	第 2 次 LN07	完掘	方形	800 × 710	K	北	-	○	N-32-E	6C 後半	13・14・16 住と 重複	川崎 2 次、市史資 I
13	1975	第 2 次 LN04	完掘	隅丸方形	390 × 350	K	東	60 × 70	○	N-64-E	6C 前半	12 住と重複	川崎 2 次、市史資 I
14	1975	第 2 次 LN05	完掘	長方形	450 × 370	K	北	100 × 80	○	N-1-E	10C 2 半期	12・15 住と重複、 土鍾	川崎 2 次、市史資 I
15	1975	第 2 次 LN19				K	東	-		-	9C 4 半期	14 住と重複	川崎 2 次、市史資 I
16	1975	第 2 次 LN14	完掘	長方形	370 × 260	K	北	90 × 80	○	N-4-E	9C 3 半期	12 住と重複	川崎 2 次、市史資 I
17	1975	第 2 次 LN12	南側未掘	(隅丸方形)	700 × -			-		N-55-E	6C	18 住と重複、 紡錘車	川崎 2 次、市史資 I
18	1975	第 2 次 LN33		不明				-		-		17 住と重複	川崎 2 次、市史資 I
19	1975	第 2 次 LN06	完掘	隅丸方形	410 × 420	K	北東	-	○	N-45-E	6C	J34 住と重複	川崎 2 次、市史資 I
20	1975	第 2 次 LN22	完掘	長方形	410 × 330	K	北	120 × 120	○	N-29-W			川崎 2 次、市史資 I
21	1975	第 2 次 LN53	完掘	長方形	350 × 280	K	東	70 × 60	○	N-87-E	10C 2 半期	22 住と重複	川崎 2 次、市史資 I
22	1975	第 2 次 LN54	一部	方形	330 × 320	地床 炉		-		N-6-W	五領	21 住と重複	川崎 2 次、市史資 I
23	1975	第 2 次 LN20	3/5	(長方形)	- × 350	K	北	-	○	N-23-E	9C 2 半期	鍛冶工房跡	川崎 2 次、市史資 I
24	1975	第 2 次 LN21	ほぼ完掘	正方形	580 × 580	K	北西	50 × 70	○	N-43-W	鬼高	紡錘車	川崎 2 次、市史資 I
25	1977	第 3 次 1 号住居	南東隅のみ	(長方形)		K	東	-	○	-		途中で廃絶	川崎 3 次
26	1977	第 3 次 2 号住居	完掘	長方形	350 × 330	K	北	- × 70	○	-	国分	鉄製品多い	川崎 3 次
27	1977	第 3 次 4 号住居 第 18 次 4 号住居	(完掘)	長方形	350 × 400	K	東	170 × 110	○	-	国分		川崎 3 次、上埋 19
28	1977	第 3 次 5 号住居 第 18 次 5 号住居	(完掘)	長方形	350 × 320	K	東	120 × 90	○	-	国分		川崎 3 次、上埋 19
29	1977	第 3 次 6 号住居	4/5	正方形	440 × -	K	北	155 × 90	○	-	9C 4 半期	焼失家屋	川崎 3 次、上埋 19
30	1977	第 3 次 9 号住居	1/2	(方形)	415 × -			-	○	-	国分		川崎 3 次、上埋 19
31	1979	第 6 次 1B 住居			340 × -			-	○	-	9C 2 半期	1A・1C と重複	上埋 II
32	1979	第 6 次 2 号住居	1/3		340 × -	K	北→東	140 × 80	○	-	9C 1 半期	鉄製品多い	上埋 II
33	1984	宅地添第 4 次 3 住居	完掘	正方形	340 × 340	K	東	120 × 100	○	-	8C 3 半期		上埋 VII
34	1990	第 13 次 1 号住居	1/2 ~ 1/3		390 × -	K		-	○	-	7C 後半		上埋 13
35	1990	第 14 次 2 号住居	南 1/2		340 × -	K	東	-	○	-	9C 1 半期		上埋 13
36	1991	第 15 次 1 号住居			395 × 285	K	北東	-		-	9 ~ 10C	37・41 住と重複	上埋 14
37	1991	第 15 次 2 号住居		正方形	380 × 380	K	東	-		-	9C 中葉	36・41 住と重複	上埋 14
38	1991	第 15 次 3 号住居	完掘	長方形	265 × 430	K	南東	-	○	-	9C 初頭		上埋 14
39	1991	第 15 次 4 号住居	1/2	正方形	580 × -	K	東	-	○	-	8 末 ~ 9C 初頭		上埋 14
40	1991	第 15 次 5 号住居	3/4		280 × -	K	北	-	○	-	9C 前半 ~ 中		上埋 14
41	1991	第 15 次 6 号住居		正方形	425 × 270	K	北	-	○	-	8C 後半	36・37 住と重複	上埋 14
42	1991	第 15 次 7 号住居	1/2	正方形	570 × -	K	北	-	○	-	9C 前半	緑釉陶器、焼失 家屋	上埋 14
43	1995	第 16 次 1 号住居	1/2	(方形)	450 × -	K	東 ?	-	○	-	8C 中 ~ 9C 中	2 住と重複	市内 26
44	1994	第 16 次 2 号住居	北西隅のみ	(方形)	約 330 × -	K	北 or 東	-		N-87-E	9C 中 ~ 後半	1 住と重複	市内 26
45	1994	第 16 次 5 号住居	2/3	(方形)	約 430 × -	K	東	-	○	N-86-E	8C 後葉		市内 26
46	1994	第 16 次 6 号住居	カマドのみ	-	-	K	東	-		-	9C 末 ~ 10C 初	SB5 と重複	市内 26
47	1996	第 17 次 1 号住居	完掘	長方形	400 × 400	K	東	-	○	-	国分	墨書土器	上埋 19
48	1996	第 18 次 2 号住居	完掘	長方形	300 × 300	K	東	-	○	-	国分		上埋 19
50	2005	第 20 次 1 号住居	完掘	長方形	320 × 350	K	北西	-	○	N-45-W	7C 前半 ~ 中		市内 1
51	2006	第 21 次 1 号住居	完掘	方形	410 × 365 × 10	K	東	145 × 125	○	N-106-E	9C 後半		市内 3

住居 番号	調査 年度	調査名	調査率	平面形 () は推定	規模	炉	設 置 壁	竈	周 溝	主軸方位	時期	備考	所収報告書
						K (竈)		規模					
52	2008	第26地点 H28号住居	完掘	方形	349 × 316 × 33	K	北	95 × 83	○	N-16-E	9C 後半		市内 6
53	2008	第26地点 H29号住居	北側のみ	(方形)	431 × 205 × 24	K	北	70 × -	○	N-16-E	9C 後半		市内 6
54	2008	第26地点 H30号住居	完掘	長方形	424 × 296 × 20	K	北	98 × 71	○	N-4-E	8C 後半		市内 6
55	2008	第28地点 H31a号住居	北側のみ	(方形)	(390 × 233) × 15	K	北	88 × 84		N-19-E	8C 中 ～後半		市内 6
56	2008	第28地点 H31b号住居	北側のみ	(方形)	(404) × 325 × 2			-	○	N-18-E			市内 6
57	2008	第28地点 H32号住居	完掘	長方形	357 × 295 × 24	K	東	108 × 80	○	N-105-E	8C 中 ～後半		市内 6
58	2008	第29地点 H33号住居	北東のみ	(方形)	(214 × 205) × 16	K	東	(65 × 65)	○	N-98-E	8C 後半～ 9C 初頭		市内 6
59	2008	第29地点 H34号住居	完掘	方形	(378) × 372 × 12	K	北	71 × 90	○	N-16-E	9C 後半	墨書土器	市内 6
60	2008	第30地点 H35号住居	完掘	長方形	294 × 232 × 26	K	東	141 × 88	○	N-104-E	9C 前半		市内 6
61	2008	第30地点 H37号住居	完掘	方形	415 × 414 × 21	K	北	88 × 140	○	N-16-E	9C 後半	灰釉陶器	市内 6
62	2008	第30地点 H38号住居	1/2	(方形)	375 × (105) × 17			-	○	N-5-E	9C 後半	墨書土器	市内 6
63	2009	第31地点 H63号住居		長方形	310 × 276 × 29	K		105 × 90	○	N-7-E	9C		市内 8
64	2009	第31地点 H64号住居		長方形	215 × 265 × 15	K		82 × 40		N-88-E	9C		市内 8
65	2011	第32地点 H65号住居	完掘	長方形	355 × 460 × 35	K	北東	113 × 132	○	N-27-E	10C		市内 10
66	2011	第32地点 H66号住居	ほぼ完掘	方形	420 × 365 × 50	K	東	49 × 105	○	N-99-E	8C ～ 9C 初頭		市内 10
67	2011	第32地点 H67号住居	1/2	方形	(220) × 330 × 30			未検出	○	N-0-E	10C		市内 10
		68 ～ 71 は欠番											
72	2011	第35地点 H72号住居		隅丸長方形	(370 × 470) × 50			-		-		プランのみ	市内 14
73	2012	第36地点 H73号住居	完掘	隅丸方形	320 × 415 × 60	K	北	77 × 40	○	N-2-E	9C 中	プランのみ	市内 14・25
2021	2012	第52地点 H73号住居											
74	2012	第36地点 H74号住居		(長方形)	(90 × 350)			-		-			
75	2012	第36地点 H75号住居		(長方形)	(440 × 450)			-		-			
76	2012	第36地点 H76号住居		(長方形)	(130 × 460)			-		-			
77	2012	第36地点 H77号住居		(長方形)	340 × (260)			-		-			
78	2012	第36地点 H78号住居		(長方形)	(390) × 420			-		-			市内 14
79	2015	第42地点 H79号住居			(340 × 350)			-		-		プランのみ	市内 22
80	2015	第44地点 H80号住居	1/2 ～ 1/3	(長方形)	330 × 140 以上			-	○	-	9C 代	J24 住と重複	市内 19
81	2014	第41地点第1号住居		方形	300 × (360)	K		-		N-19-W			県埋文 420
82	2014	第41地点第3号住居		(長方形)	480 × (210)			未検出		N-7-E		J29 住と重複	県埋文 420
83	2014	第41地点第6号住居		(方形)	540 × (200)			未検出		N-0			県埋文 420

第54表 川崎遺跡掘立柱建物跡一覧表(単位 cm)

番号	調査 年度	調査名	平面形 () は推定	規模		主軸方位	時期	備考	所収報告書
				(cm)	柱 間				
1	1994	第16次1号掘立	長方形	(500) × (230)	桁行3間 × 梁行2間	東西	8C 中～9C 前	土坑2、井戸1と重複	市内 26
2	1994	第16次2号掘立	長方形	- × (440)	梁行2間	E-5-S	9C 前～後	一部のみ	
3	1994	第16次3号掘立	長方形	760 × 490	桁行3間 × 梁行2間	南北	9C 前	SB4 と重複	
4	1994	第16次4号掘立	長方形	630 × 430	桁行3間 × 梁行2間	N-5-E	8C 後～9C 初	SB3 と重複	
5	1994	第16次5号掘立	長方形	(220) × 370	桁行2間 × 梁行2間	東西	9C 中	H46 号住居と重複	
6	1994	第16次6号掘立	長方形	570 × 410	桁行3間 × 梁行2間	N-3-E	8C 中～後		
7	2008	第25地点1号掘立	長方形	430 × 320	桁行2間 × 梁行2間	N-11-E	平安時代		市内 6



第 88 図 川崎遺跡第 16 次遺構配置図 (1/200)

Ⅱ 遺構と遺物

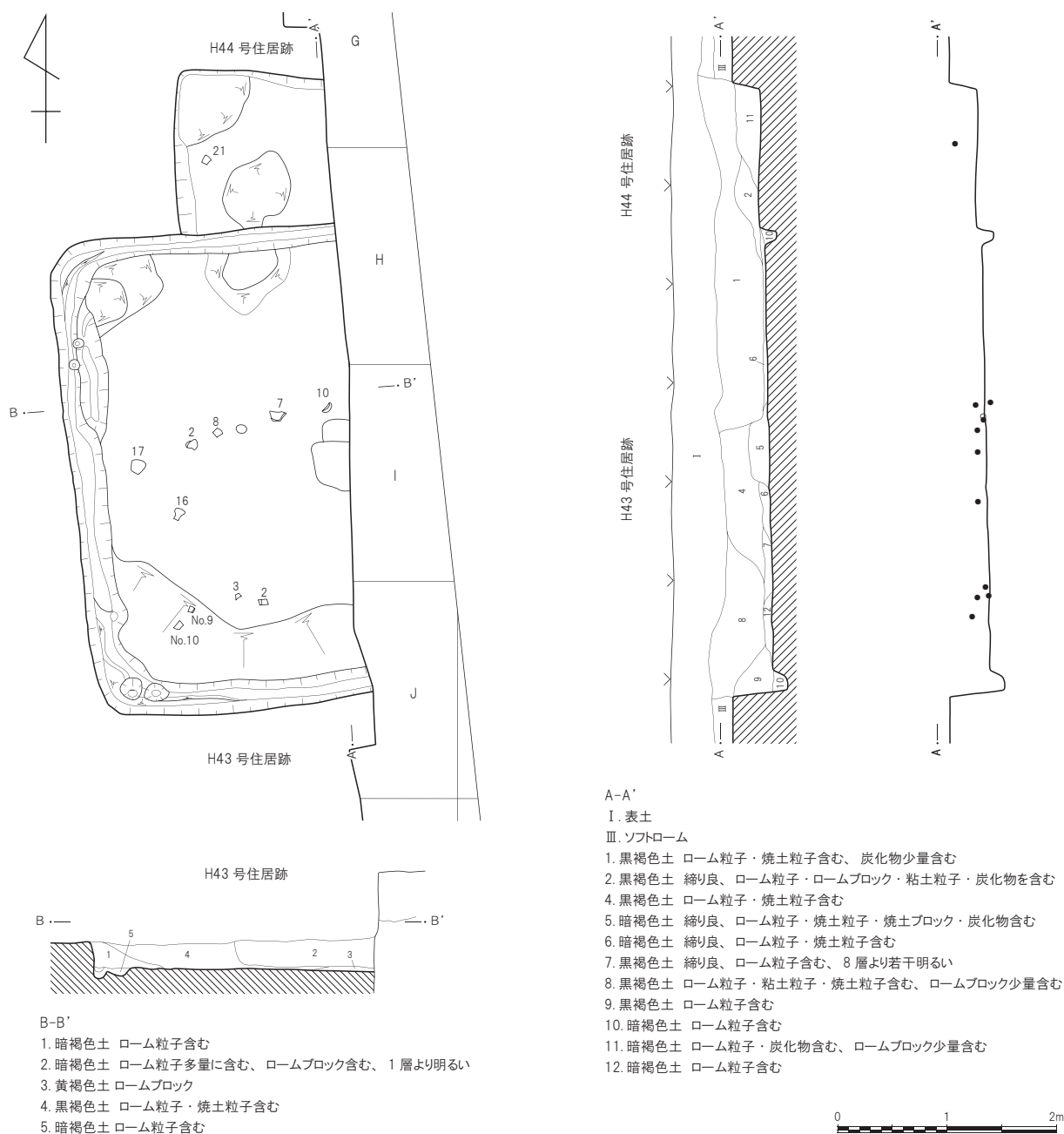
H43号住居跡

【位置】調査区東端のやや南寄りのH～J-1グリッドに位置する。H44号住居跡との新旧関係は土層よりH43号→H44号と判断される。

【形状・規模】遺構東部が調査区外にあるため全体の形状は確定できないが検出部分の形状及び遺構の年代からほぼ方形と推定される。規模は南北長約450cm。確認面から床面までの深さは約40cm。なお北壁寄りの床面に約5cmほどの高さのステップ状の高まりがある。壁溝は調査範囲内では全周する。周溝内ピットが2本一対で2ヶ所確認された。掘り方は北西隅と南壁壁寄りで検出された。

【竈】調査区内では確認されていない。おそらく東カマドと推定される。

【遺物】南壁寄り床面から須恵器坏（第100図3）が、住居中央で床面から約10cm程度浮いて須恵器坏・埴（第101図2・8・10）、灰釉陶器長頸瓶・須恵器壺（第100図16・17）が出土した。遺物の時期は8世紀後葉から9世紀中葉。



第89図 川崎遺跡第16次 H43・44号住居跡 (1/60)

H44 号住居跡

【位置】調査区東端のやや南寄りの G～I－1 グリッドに位置する。H43 号住居跡との新旧関係は土層より H 43 号→H 44 号と判断される。

【形状・規模】遺構東部が調査区外で南部は H43 号住居跡の入れ子状の関係となっているため全体の形状は確定できないが遺構の年代等からほぼ方形と推定される。規模は南北長が約 330 cm。確認面から床面までの深さが約 40 cm。掘り方は土層図の通り浅い。

【竈】調査区内で確認されていない。土層図中の 2 層に粘土・炭化物粒子が見られることから東寄りの北カマドの可能性はあるが、東カマドも否定はできない。

【遺物】覆土中から、須恵器坏（第 100 図 18）、灰釉陶器壺・灰釉陶器瓶（第 100 図 19、20）が出土した。出土遺物の年代は 9 世紀中葉～後葉。

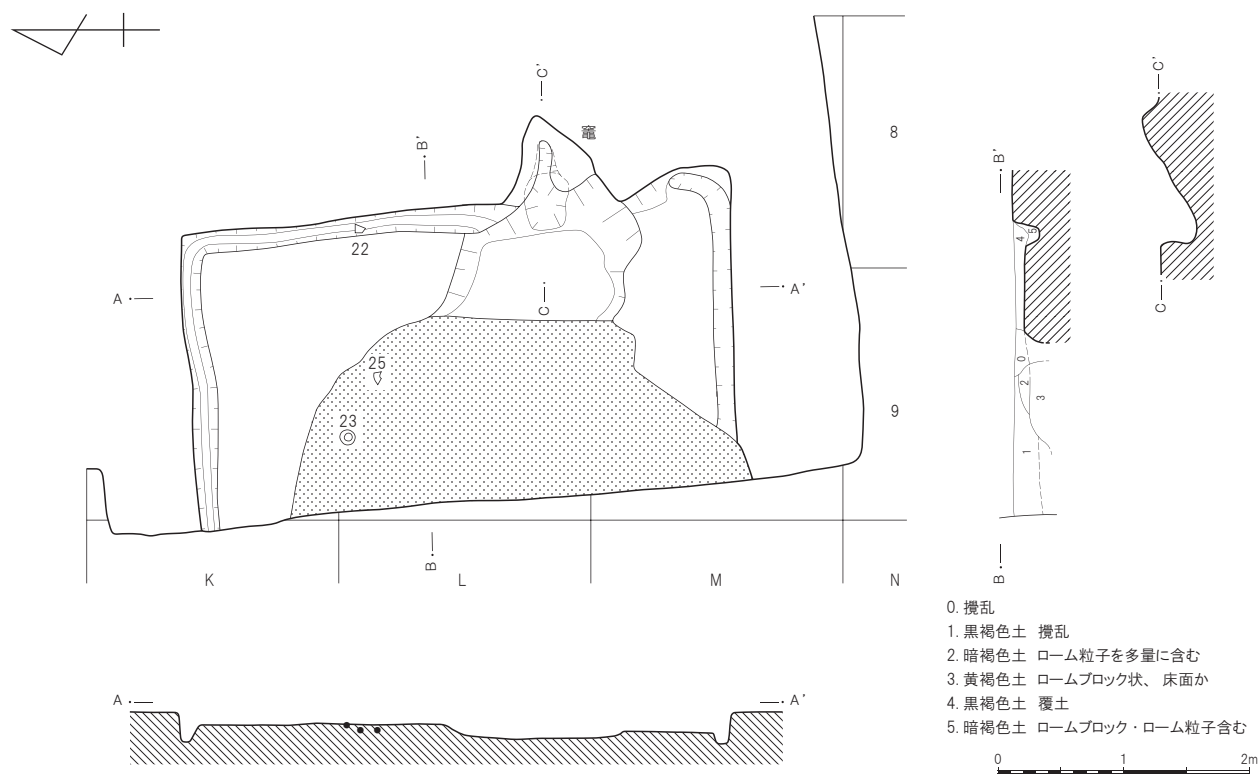
H45 号住居跡

【位置】調査区南西隅の K～M－8～10 グリッドに位置する。なお、調査区外側から攪乱が入る。

【形状・規模】平面形態は遺構西部分が調査区外のため形状は確定できないが、調査部分の形状及び遺構の年代からほぼ方形と推定される。規模は南北長が約 430 cm。確認面から床面までの深さが約 10 cm と浅い。壁溝はカマド南側を除き調査区内では全周する。掘り方はカマド手前で検出された。

【竈】東壁の南寄りにある。壁溝がカマド南に見られないことから、カマドに向かって右手側に棚状遺構があった可能性が指摘できる。住居が浅いことからすると耕作等で攪乱され消失したと考えられる。

【遺物】住居中央やや北寄りの床面近くで完形で底部に掘立柱建物跡 5 出土（40）と類似した「甘」または「井」のへラ記号のある須恵器坏（第 100 図 23）が、東壁溝上で土師器甕片（22）が出土した。遺物の年代は主に 8 世紀後葉。



第 90 図 川崎遺跡第 16 次 H45 号住居跡 (1/60)

H46号住居跡

【位置】調査区北西隅のC-10グリッドでカマドのみが検出される。

【遺物】カマド内より土師器甕（第101図26）、須恵器皿（第101図27）が出土した。遺物の年代は9世紀末から10世紀初頭。

SB1(掘立柱建物跡1)

【位置】調査区北東隅のA・B-1～3グリッドに位置する。土坑2及び井戸1と切り合い関係にある。新旧関係はSB2→井戸1。土坑2とは不明。

【形状・規模】梁間2間以上、桁行3間以上の側柱の掘立柱建物跡と推定される。ピット平面形態は隅丸長方形を基本とするが南西隅のピットは「く」字状を呈する。但し西の内側に軸線からずれるピットが2基あるが本掘立柱建物に伴うとすれば壁か棚となる可能性がある。SB6に同様な柱穴がある。柱痕は確認されていないがピット底の小ピットから柱の位置はほぼ確認できる。棟方向はほぼ東西方向。

梁間ピット間隔は230 cm。桁行ピット間隔は西から262 cm、226 cm。

【遺物】建物南西隅のピット2から須恵器坏（第101図28～30）、須恵器蓋（第101図31）が出土。遺物の年代は8世紀中葉から9世紀前葉。

SB2(掘立柱建物跡2)

【位置】調査区北東隅のB～E-1グリッドに位置する。SB1と切り合い関係にある。新旧関係はSB2→SB1と判断される。

【形状・規模】張間2間の掘立柱建物跡と推定される。ピット平面形態は隅丸方形。すべてのピットに柱痕を残す。棟方向はE-5°-S。

梁間430 cm、ピット間隔は北から224 cm、210 cm。

【遺物】出土遺物はない。

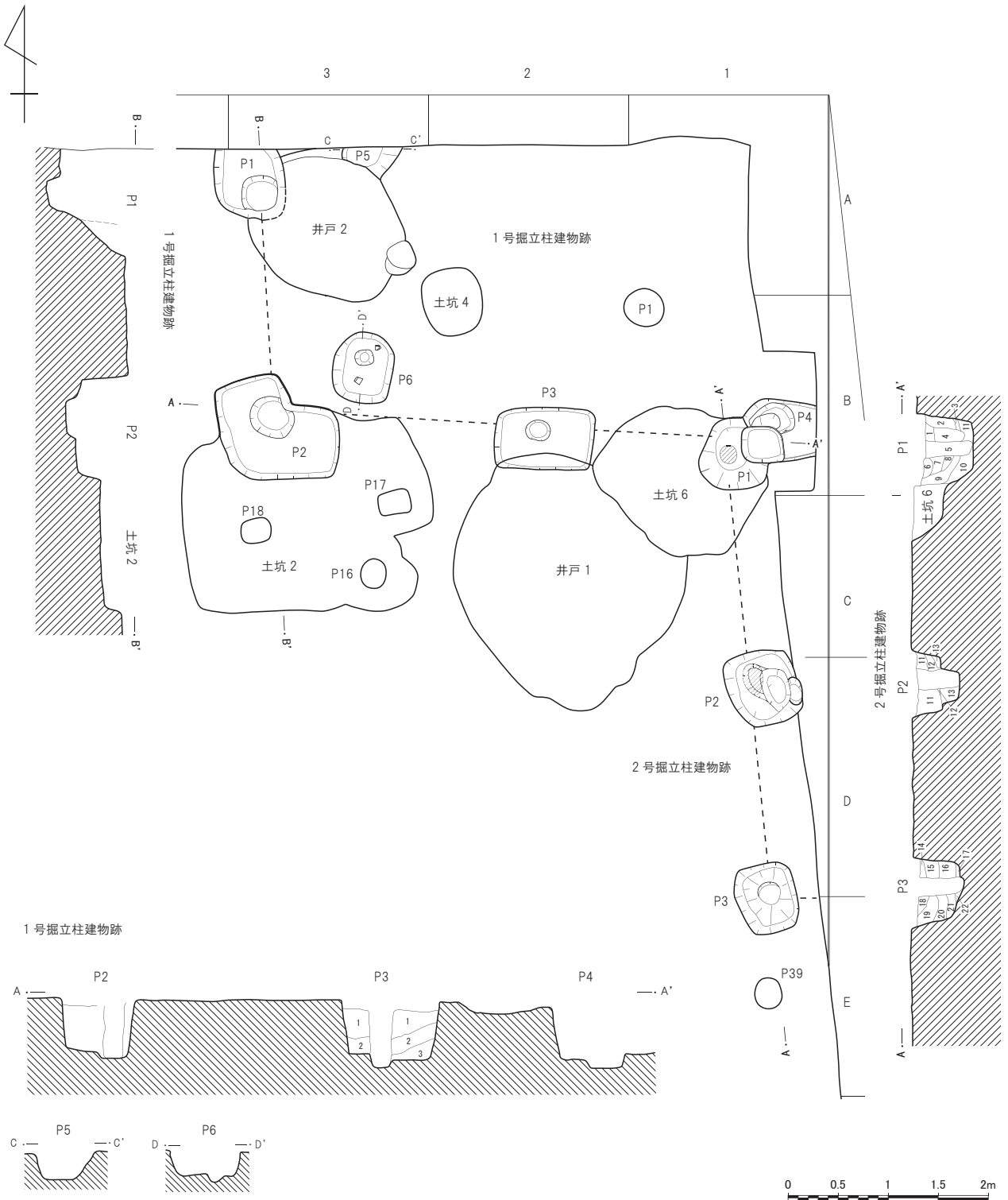
SB3(掘立柱建物跡3)

【位置】調査区中央のE～I-3～6グリッドに位置する。縄文前期の大型竪穴住居跡及びSB4と切り合い関係にある。新旧関係はSB4→SB3と判断される。

【形状・規模】梁間2間、桁行3間の側柱の掘立柱建物跡。本調査で最大規模。棟方向はほぼ南北方向。ピットの平面形態は隅丸長方形を基本とし、南東・南西隅のピットが「く」字状を呈する。

北梁間500 cm、ピット間隔距離は西から250 cm、250 cm。南梁間488 cm、ピット間隔距離は西から244 cm、244 cm。西桁行772 cm、ピット間隔距離は北から250 cm、256 cm、256 cm。東桁行758 cm、ピット間隔距離は北から254 cm、254 cm、260 cm。

【遺物】東桁行のピット3から須恵器蓋・甕（第101図32・33）。南西隅ピット4から灰釉陶器瓶（第101図34）、西桁行ピット8から須恵器坏（第101図35）を出土。遺物の年代は9世紀前葉。



1号掘立柱建物跡

1. 黒褐色土
2. 暗褐色土 ローム粒子含む
3. 暗褐色土 ローム粒子を多量に含む

2号掘立柱建物跡

4. 黒褐色土 ロームブロック・ローム粒子含む
5. 暗褐色土 ローム微粒子含む
6. 黒褐色土 ローム粒子含む
7. 黒褐色土 ローム粒子含む、ロームブロック1cm 多量に含む
8. 暗褐色土 やや締り弱い、ローム粒子・ロームブロック含む
9. 暗褐色土 硬い
10. 黒褐色土 土器粒子・ローム土粒子を少量含む
11. 黒褐色土 色調は7層より暗い
12. 暗褐色土
13. 暗褐色土
14. 黒褐色土
15. 暗褐色土 ローム粒子・5cm 大ロームブロック含む
16. 茶褐色土 ローム粒子を多量に含む
17. 暗褐色土 締まり良く硬い、ローム粒子含む
18. 暗褐色土 色調は6層と8層の間くらい
19. 黒褐色土
20. 暗褐色土 ローム粒子を多量に、5cm 大ロームブロック含む
21. 黒褐色土
22. 黄褐色土

第91図 川崎遺跡第16次1・2号掘立柱建物跡(1/60)

SB4(掘立柱建物跡 4)

【位置】調査区中央の3～6-D～Hグリッドに位置する。縄文前期の大型竪穴住居跡及びSB3と切り合い関係にある。新旧関係はSB4→SB3と判断される。

【形状・規模】梁間2間、桁行3間の側柱の掘立柱建物跡。ピットの平面形態は隅丸長方形を基本とし、建物北東・南東隅が「く」字状を呈する。柱痕はほぼすべてのピットで確認された。棟方向はN-5°-E。

北梁間430cm、ピット間隔距離は西から210cm、220cm。南梁間430cm、ピット間隔距離は西から194cm、236cm。西桁行630cm、ピット間隔距離は北から210cm、200cm、220cm。東桁行630cm、ピット間隔距離は北から210cm、190cm、230cm。

【遺物】ピットから土師器甕(第101図36)、須恵器坏・高台付坏(第101図37～39)を出土。遺物の年代は8世紀後葉。

SB5(掘立柱建物跡 5)

【位置】調査区北西隅のB～D-9・10グリッドに位置する。H46号住居跡と切り合う。

【形状・規模】梁間2間、桁行2間以上の側柱の掘立柱建物跡と推定される。棟方向はほぼ東西。ピットの平面形態は隅丸長方形を基本とし南東隅が「く」字状を呈する。柱痕跡はすべてのピットに確認できる。

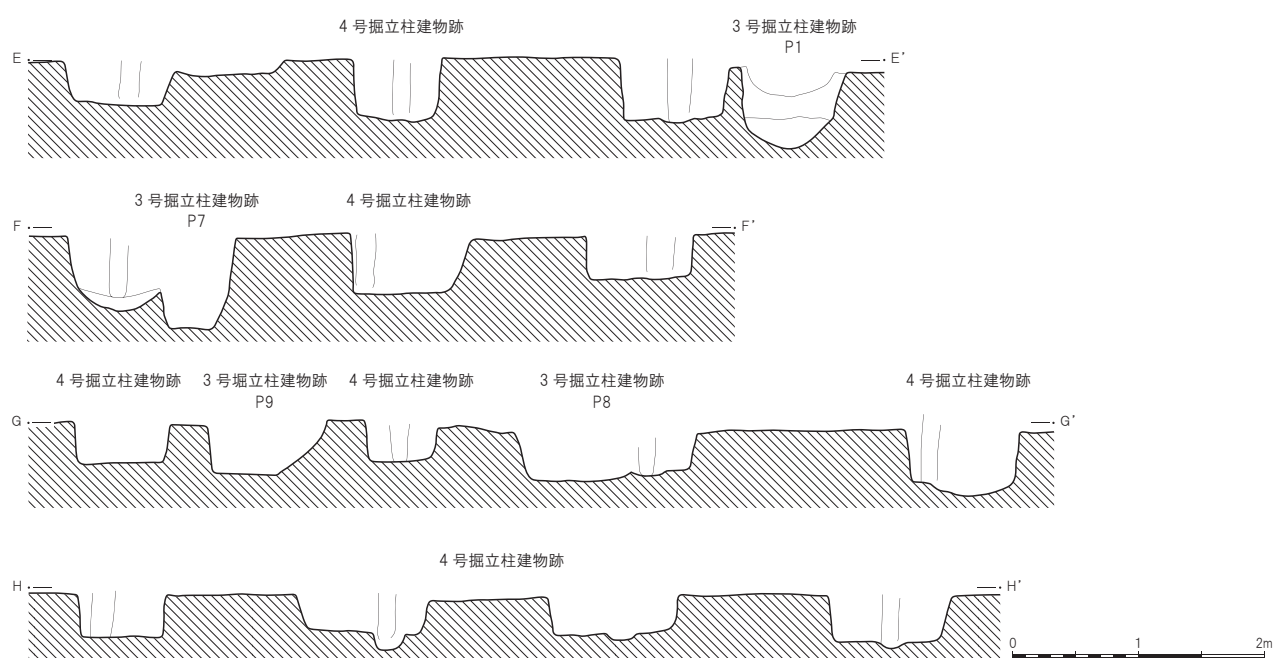
東梁間370cm、ピット間隔距離は北から190cm、180cm。北桁行のピット間隔距離は210cm。南桁行のピット間隔距離は230cm。

【遺物】北東隅(鬼門)のピット1から完形で底部に「井」または「甘」のヘラ記号と体部に横位で「禾」に「一」の合わせ字と推定される墨書がある須恵器坏(第101図40)、南西隅のピット3から須恵器高台付皿(第101図43)、南桁行のピット4から須恵器坏(第101図42)が出土。遺物の年代は9世紀中葉。

SB6(掘立柱建物跡 6)

【位置】調査区南寄りのJ～N-3～6グリッドに位置する。

【形状・規模】梁間2間、桁行3間の側柱の掘立柱建物跡。棟方向はN-3°-E。但し南に軸線からずれるピット

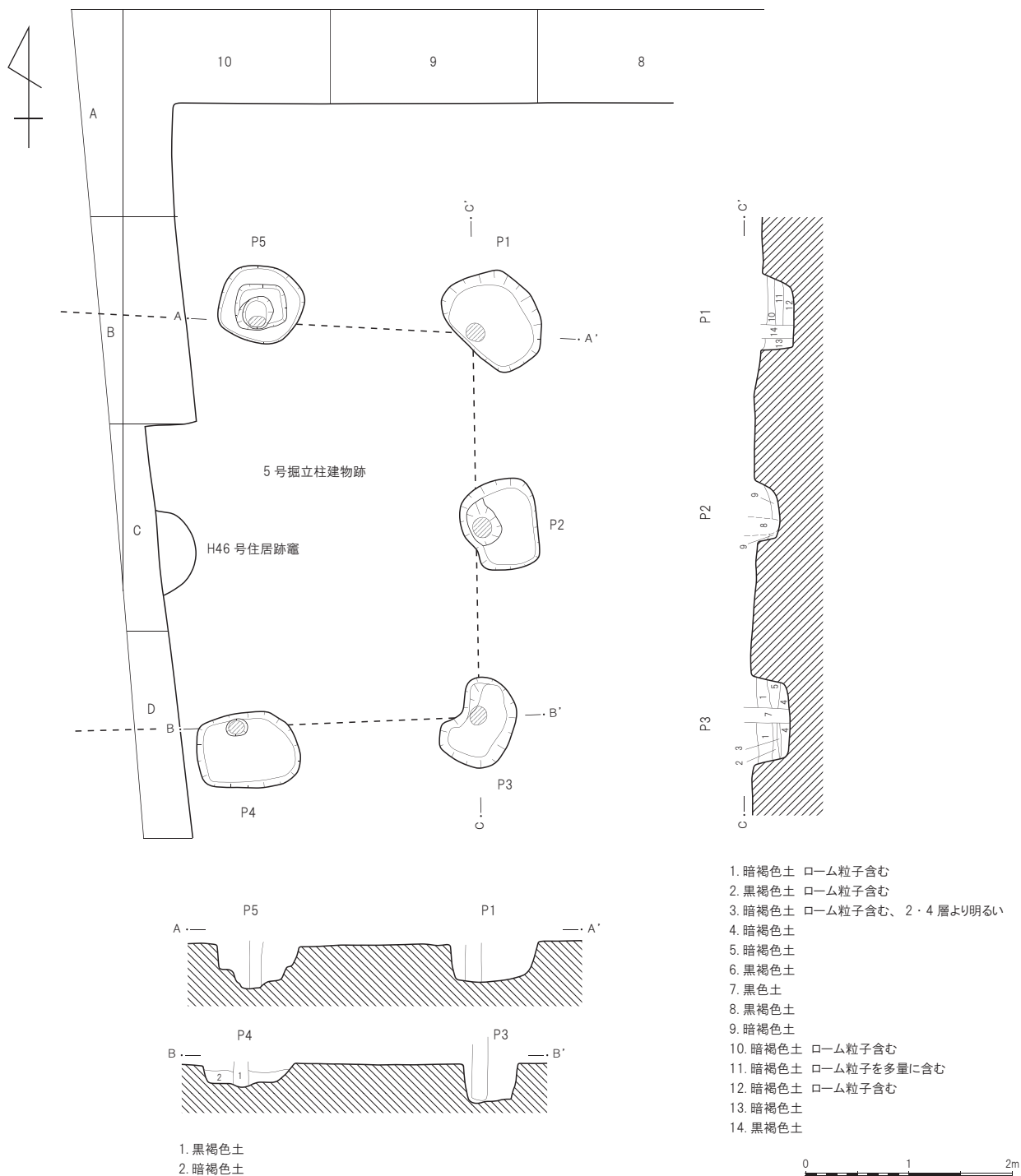


第93図 川崎遺跡第16次3・4号掘立柱建物跡土層(1/60)

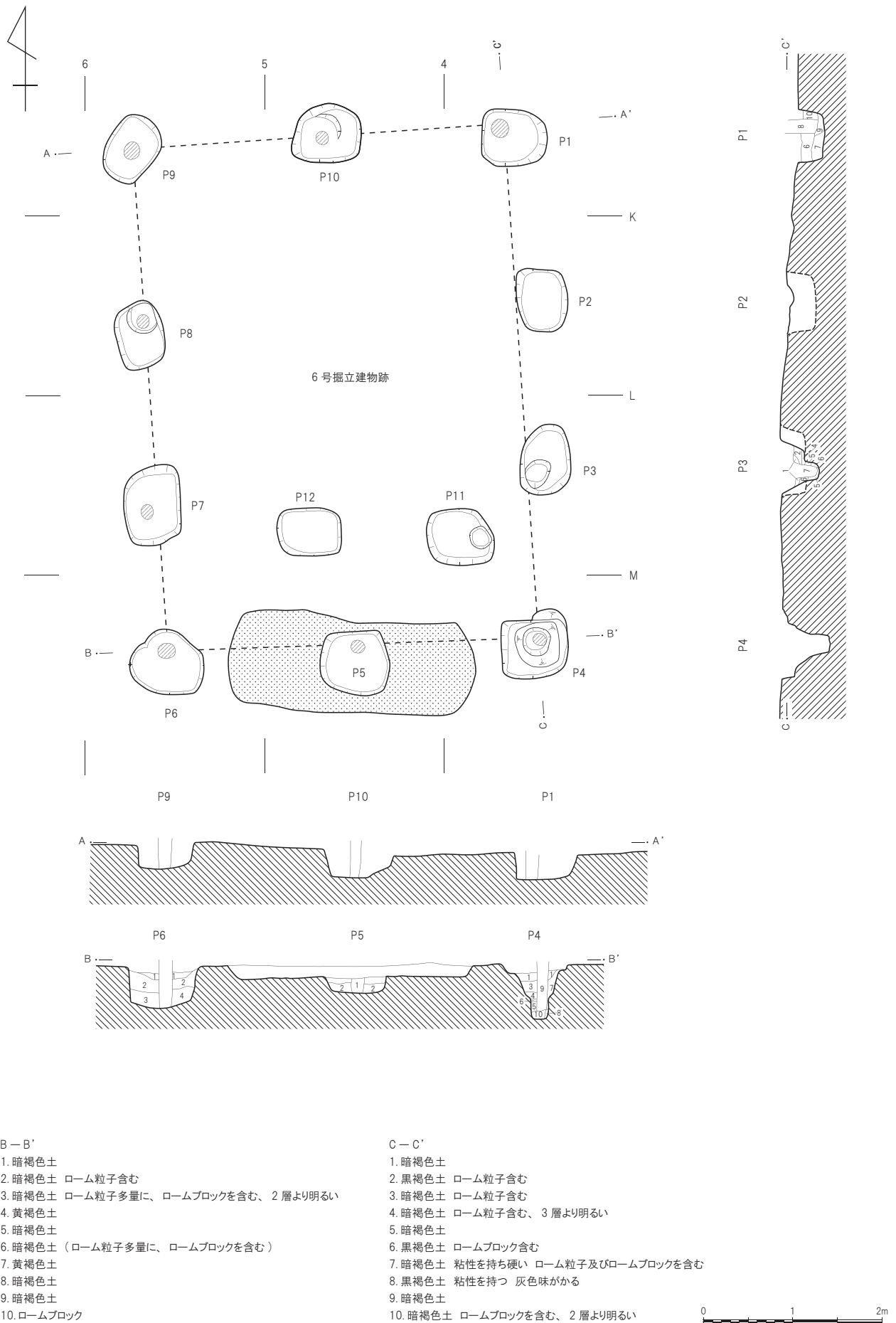
トが2基あるが本掘立柱建物に伴うとすれば壁ないし棚が想定できる。SB1に同様な柱穴がある。南庇が付く建物になる可能性もある。平面形態は隅丸長方形を基本とするようであるが規格外もある。柱痕はほぼすべての柱で確認できる。

北梁間 410 cm、ピット間隔距離は西から 210 cm、200 cm。南梁間 416 cm、ピット間隔距離は西から 210 cm、206 cm。西桁行 556 cm、ピット間隔距離は北から 190 cm、210 cm、156 cm。東桁行 570 cm、ピット間隔距離は 190 cm、200 cm、180 cm。

【遺物】北東隅のピット1から須恵器高台付坏(第101図44)、西桁行のピット7から須恵器蓋(第101図45)が出土。遺物の年代は8世紀中葉～後葉。



第94図 川崎遺跡第16次5号掘立柱建物跡・H46号住居跡(1/60)



第95図 川崎遺跡第16次6号掘立柱建物跡(1/60)

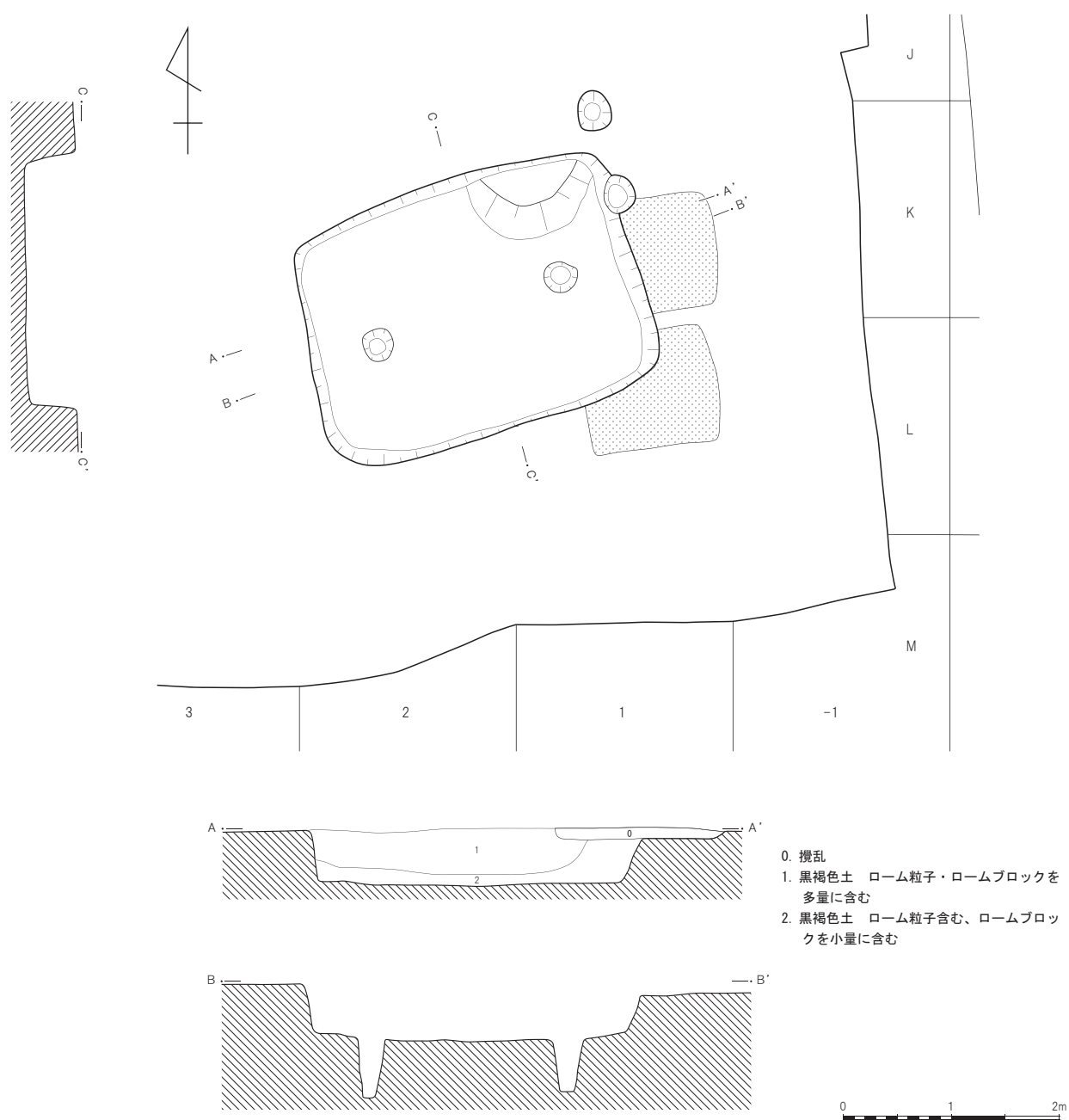
方形竪穴建物跡

【位置】調査区南東寄りの K・L - 1・2 グリッドに位置する。

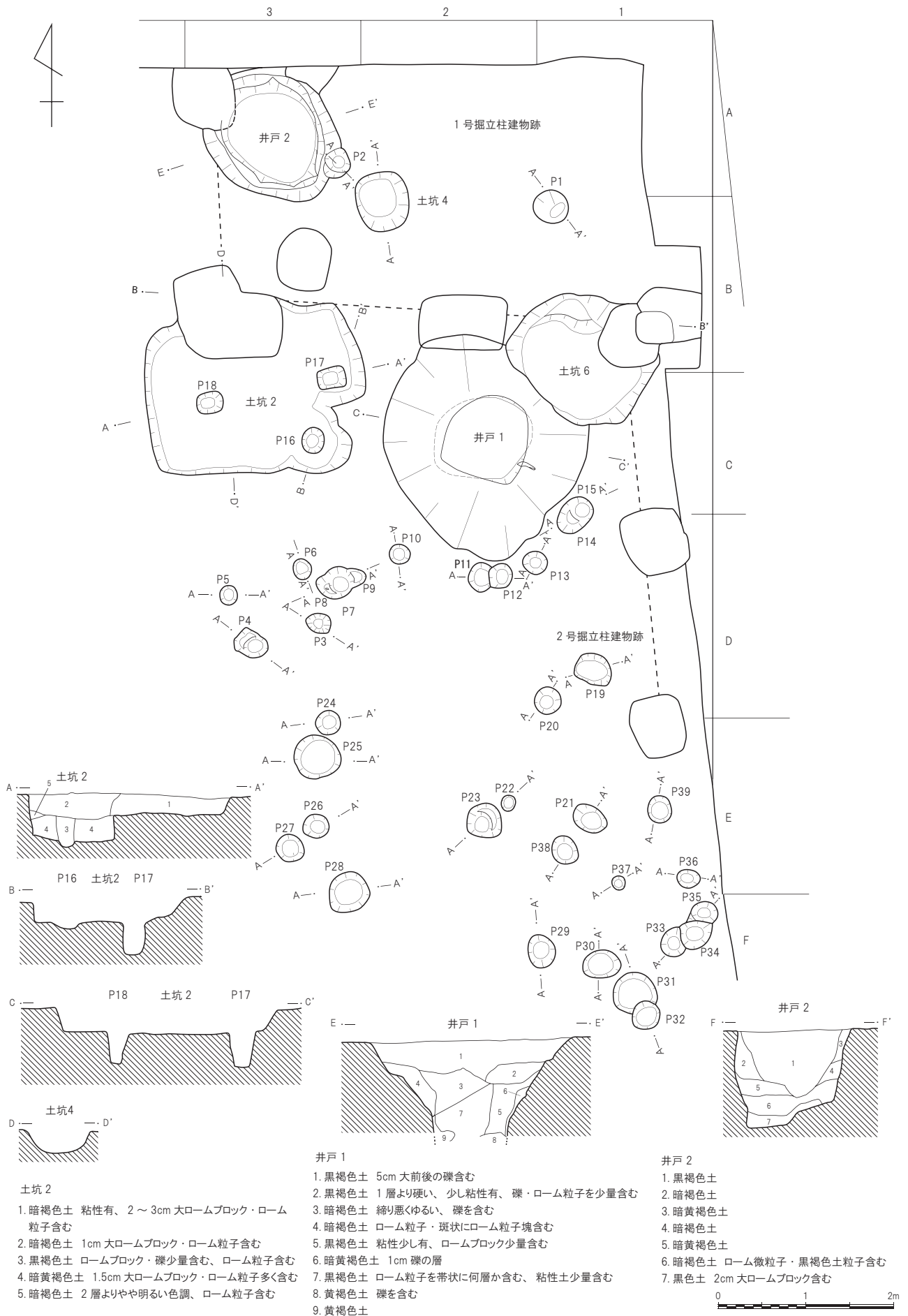
【形状・規模】隅丸長方形。長軸方向は E-19°-N。床面に長軸方向に 2 基のピット。北壁東寄りにローム混じりの土を盛った高さ 10 cm 余りの段があり出入口と考えられる。覆土はロームブロックを多く含み、人為的に埋め戻されていると考えられる。

長軸長 300 cm、短軸長 220 cm。床面のピットの深さは東で 50 cm、西で 55 cm。

【遺物】平安時代の須恵器を含むが、中世中期頃と推定される渥美焼甕片（第 102 図 52）が出土する。



第 96 図 川崎遺跡第 16 次方形竪穴建物跡 (1/60)



井戸1

【位置】調査区北東寄りのB～D－1・2グリッドに位置する。SB1及び土坑6と切り合い関係にある。新旧関係はSB1→井戸1。土坑6とは不明。

【形状・規模】平面形態は円形で、断面形態は上部がロート状に開き、確認面から1m以下は筒形を呈していたと考えられる。調査段階では井戸中位の井戸側が崩落し袋状に広がっていた。調査は確認面から約2mまで実施した。確認面での径は約240cm、筒形部で約1m。

【遺物】平安時代の土師器・須恵器片を多く含むが、中世の常滑甕片が調査範囲下層から出土する。

井戸2

【位置】調査区北東端のA－3グリッドに位置する。SB1と切り合い関係にある。新旧関係は不明。

【形状・規模】平面形態はやや楕円に近い円形で、断面形態は上部で若干開き、確認面から約60cmから筒形を呈する。調査は確認面から約130cmまで実施した。確認面で径が約140cm、筒形部で約1m。

【遺物】出土遺物はなし。

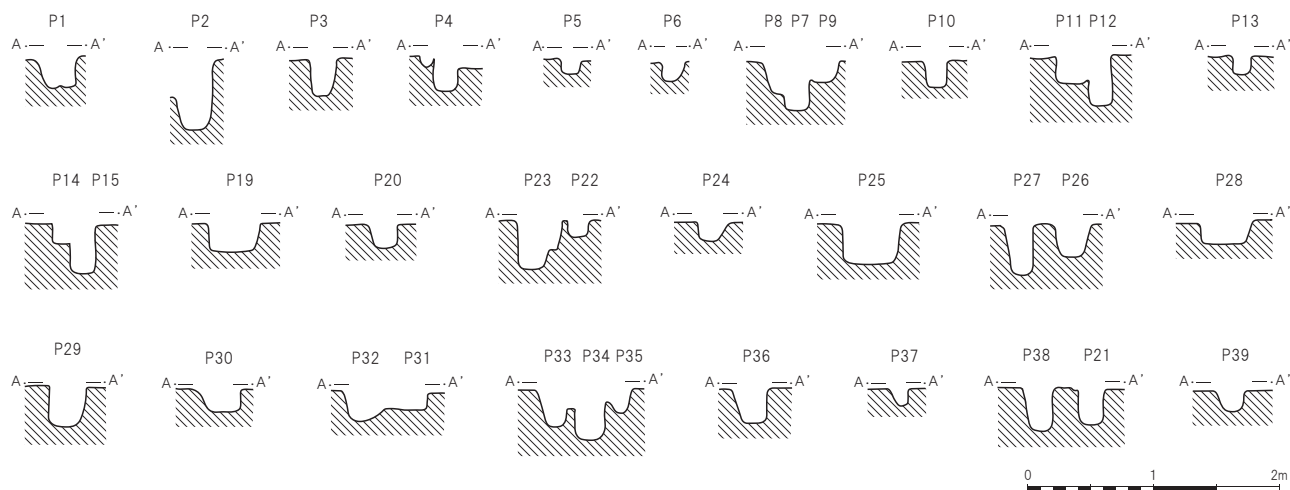
ピット

A～J－1～3グリッドにかけてピットが多数検出されている。この範囲には掘り込みの浅い縄文前期の竪穴住居跡が検出されていることから、その柱穴となるピットも含まれると考えられる。

なお、実測不能であるが時期がおおよそ判定できる遺物が出土したピットは以下のとおりである。

ピット1・10・47からは縄文前期の深鉢土器片、ピット20からは縄文中期の深鉢土器片を出土した。ピット7からは9世紀の須恵器坏片、ピット11からは9世紀の須恵器坏片・土師器甕片、ピット34からは8世紀・9世紀前半の須恵器坏片、ピット41からは9世紀の須恵器坏片を出土した。また、ピット4からは中世の在地産甕片を出土している。

ピットの詳細については、第62表を参照。



第98図 川崎遺跡第16次ピット② (1/60)



第 99 図 川崎遺跡第 16 次ピット③ (1/60)

第55表 川崎遺跡第16次土坑一覧表(単位cm)

No.	平面形態	確認面径	底径	深さ	備考
1	楕円形	154 × 137	103 × 89	131	
2	不整形	247 × 186	223 × 170	31	
3	隅丸方形	70 × 58	55 × 43	32	
4	隅丸方形	67 × 58	42 × 41	25	
5	不明	63 × (30)	33 × (24)	27	
6	不明	148 × (88)	124 × 75	41	

第57表 川崎遺跡第16次2号掘立柱建物跡ピット一覧表(単位cm)

No.	平面形態	確認面径	底径	深さ	備考
1	方形	72 × (38)	38 × 17	30	
2	方形	77 × 70	33 × 16	147	
3	方形	70 × 59	22 × 20	45	

第59表 川崎遺跡第16次4号掘立柱建物跡ピット一覧表(単位cm)

No.	平面形態	確認面径	底径	深さ	備考
1		97 × 67	17 × 13	41	
2	長方形	102 × 61	18 × (16)	34	
3	長方形	104 × 58	15 × 14	47	
4		87 × 66	21 × 20	33	
5	長方形	100 × 53	15 × 14	20	
6	方形	92 × 89	17 × 16	54	
7		72 × 58	16 × 14	44	
8	方形	80 × 61	18 × 15	26	
9	円形	98 × 80	18 × 18	33	
10	方形	73 × 62	18 × 18	52	

第61表 川崎遺跡第16次6号掘立柱建物跡ピット一覧表(単位cm)

No.	平面形態	確認面径	底径	深さ	備考
1	方形	73 × 63	19 × 15	30	
2	方形	69 × 57	63 × 51	31	
3	楕円形	80 × 67	(26) × 19	36	
4		75 × 65	16 × 13	55	
5	方形	78 × 70	16 × 14	16	
6		83 × 72	18 × 17	50	
7	長方形	89 × 63	17 × 13	32	
8	長方形	71 × 54	15 × 13	49	
9	長方形	76 × 55	19 × 17	31	
10	方形	75 × 66	14 × 13	31	
11	方形	74 × 63	20 × 18	47	
12	長方形	73 × 53	62 × 45	48	

第56表 川崎遺跡第16次1号掘立柱建物跡ピット一覧表(単位cm)

No.	平面形態	確認面径	底径	深さ	備考
1		(68) × 68	31 × 29	81	
2		119 × 73	30 × 28	63	
3	長方形	102 × 62	17 × 15	66	
4		(75) × 57	30 × 28	66	
5	不明	53 × (17)	32 × (15)	27	
6		70 × 60	10 × 10	32	

第58表 川崎遺跡第16次3号掘立柱建物跡ピット一覧表(単位cm)

No.	平面形態	確認面径	底径	深さ	備考
1	方形	96 × 78	23 × 19	51	
2	長方形	117 × 93	18 × 15	49	
3	長方形	93 × 76	21 × 17	37	
4		100 × 62	17 × 17	36	
5	円形	70 × 65	18 × 18	27	
6		95 × 56	17 × 15	30	
7	長方形	86 × 67	18 × 17	60	
8		108 × 87	19 × 15	48	
9		111 × 66	17 × 17	37	
10	方形	87 × 77	18 × 16	58	

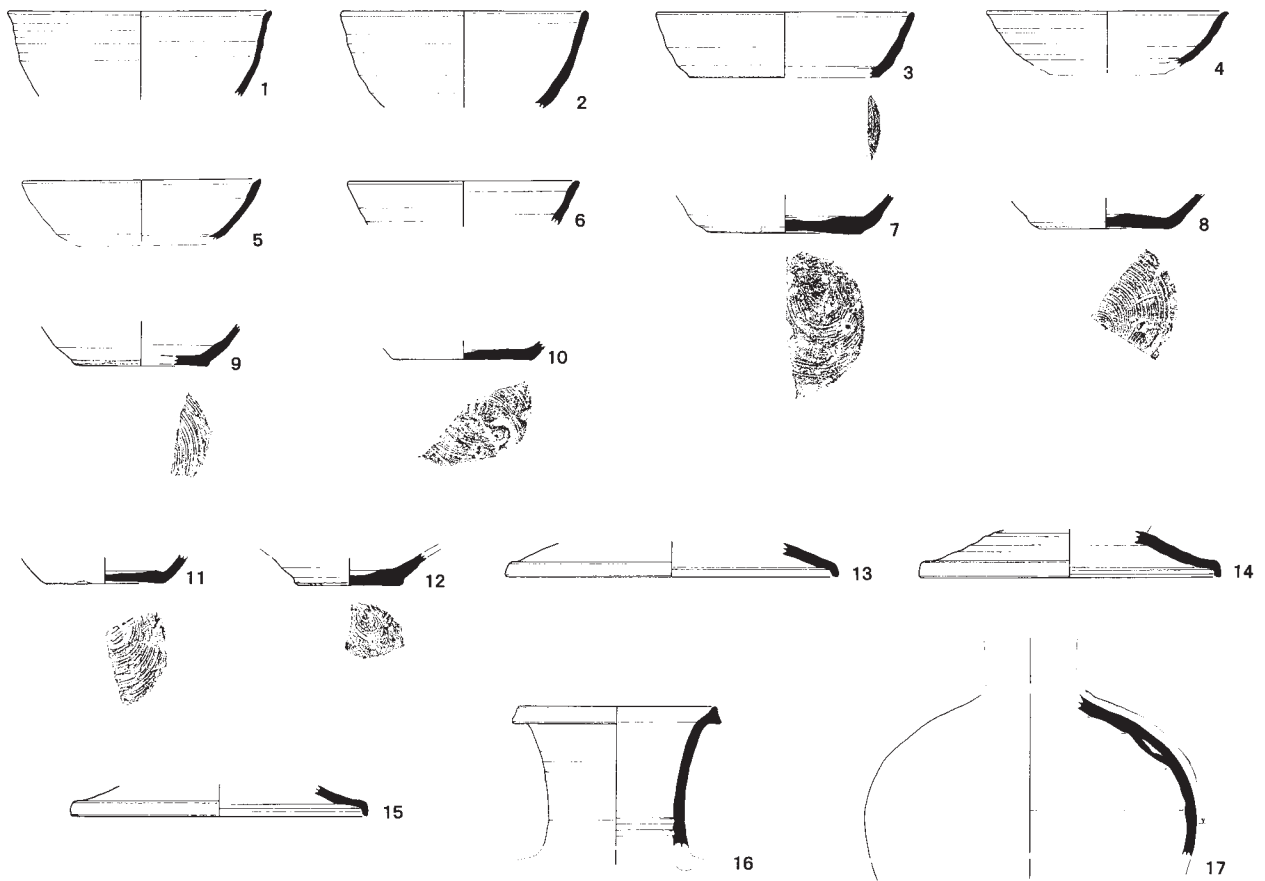
第60表 川崎遺跡第16次5号掘立柱建物跡ピット一覧表(単位cm)

No.	平面形態	確認面径	底径	深さ	備考
1		104 × 78	19 × 17	41	
2		88 × 61	19 × 15	32	
3		87 × 52	18 × 16	35	
4		98 × 73	18 × 13	20	
5	円形	82 × 74	16 × 12	33	

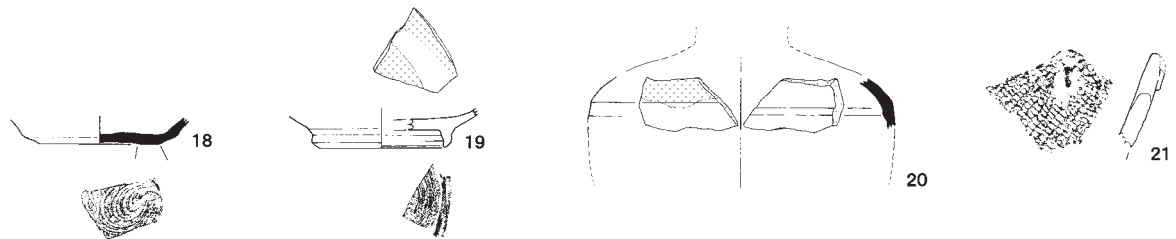
第 62 表 川崎遺跡第 16 次ピット一覧表 (単位 cm)

No.	平面形態	確認面径	底径	深さ	備考	No.	平面形態	確認面径	底径	深さ	備考
1	円形	38 × 36	20 × 9	23		37	円形	12 × 12	8 × 8	13	
2	方形	30 × 25	16 × 15	57		38	円形	31 × 25	18 × 16	34	
3	円形	29 × 23	11 × 10	29		39	円形	29 × 27	19 × 18	16	
4	方形	37 × 30	18 × 16	27		40	円形	24 × 22	19 × 14	15	
5	円形	21 × 20	11 × 10	11		41	円形	36 × 34	10 × 9	54	
6	円形	21 × 20	12 × 10	14		42	円形	33 × 32	24 × 21	12	
7	不明	29 × 23	11 × 10	39		43	円形	30 × 25	21 × 14	26	
8	不明	24 × (12)	12 × (5)	26		44	円形	25 × 23	18 × 16	9	
9	不明	24 × (19)	16 × 14	16		45	円形	33 × 31	24 × 18	23	
10	円形	22 × 19	12 × 10	20		46	楕円形	30 × 24	17 × 12	20	
11	(円形)	34 × (25)	22 × 19	21		47	円形	18 × 16	9 × 6	17	
12	円形	28 × 24	18 × 15	40		48	楕円形	26 × 15	21 × 8	6	
13	円形	27 × 24	15 × 11	21		49	円形	36 × 32	21 × 19	20	
14	不明	30 × (17)	16 × (7)	16		50	円形	34 × 31	11 × 9	12	
15	不明	30 × (24)	17 × 15	39		51	円形	24 × 22	13 × 11	19	
16	方形	26 × 20	16 × 11	7		52	円形	27 × 23	8 × 7	16	
17	方形	32 × 26	15 × 13	40		53	楕円形	23 × 18	22 × 13	20	
18	方形	26 × 24	14 × 11	37		54	欠番				
19	楕円形	42 × 37	35 × 23	21		55	不明	18 × (11)	(7) × 6	21	
20	楕円形	30 × 27	19 × 15	18		56	不明	30 × 25	19 × 11	27	
21	楕円形	37 × 28	23 × 18	27		57	不明	35 × (28)	13 × 7	34	
22	円形	18 × 17	14 × 12	12		58	不明	31 × (20)	12 × 11	31	
23	方形	40 × 36	16 × 16	39		59	円形	23 × 21	14 × 10	21	
24	円形	27 × 27	15 × 15	12		60	円形	20 × 19	10 × 9	15	
25	円形	50 × 50	39 × 38	28		61	円形	22 × 18	15 × 11	21	
26	円形	28 × 27	18 × 14	26		62	円形	20 × 17	11 × 10	9	
27	円形	30 × 28	20 × 17	40		63	円形	26 × 23	14 × 11	17	
28	円形	44 × 43	31 × 28	19		64	円形	(17) × 17	12 × 9	9	
29	円形	36 × 31	16 × 11	30		65	円形	27 × 25	16 × 14	31	
30	楕円形	41 × 33	26 × 23	17		66	楕円形	32 × 26	15 × 15	17	
31	不明	50 × 45	40 × 31	13		67	円形	27 × 26	17 × 14	17	
32	楕円形	41 × 29	31 × 21	22		68	円形	24 × (18)	15 × 15	14	
33	不明	32 × (23)	14 × 13	28		69	円形	(34) × 32	(34) × 22	10	
34	不明	(40) × 36	22 × 19	40		70	円形	42 × 36	18 × 17	23	
35	円形	29 × 22	16 × 11	18		71	円形	32 × 30	22 × 20	17	
36	円形	26 × 21	13 × 11	27							

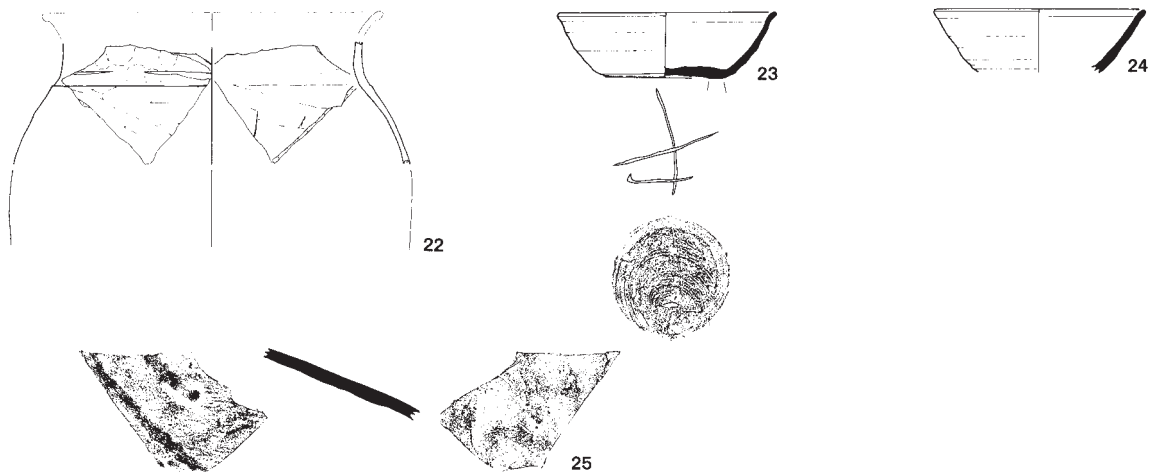
H43 号住居跡



H44 号住居跡



H45 号住居跡



0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10cm

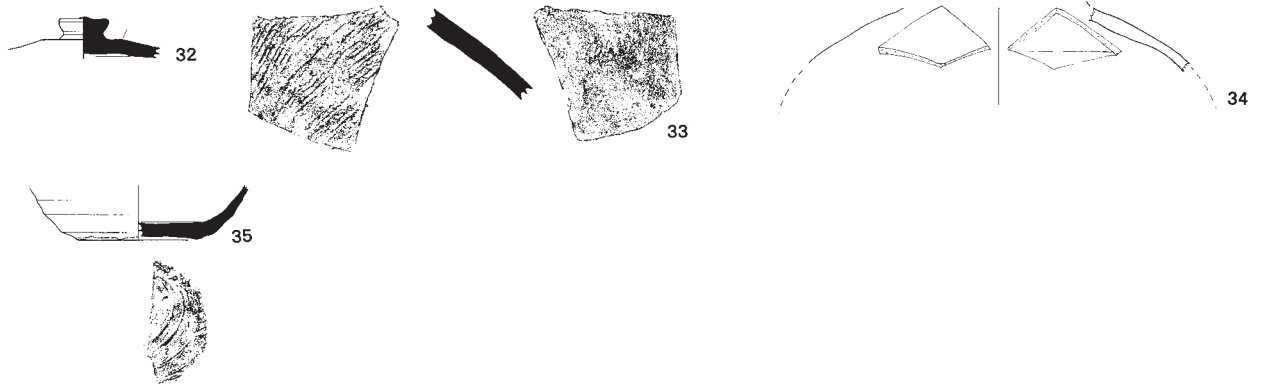
H46 号住居跡



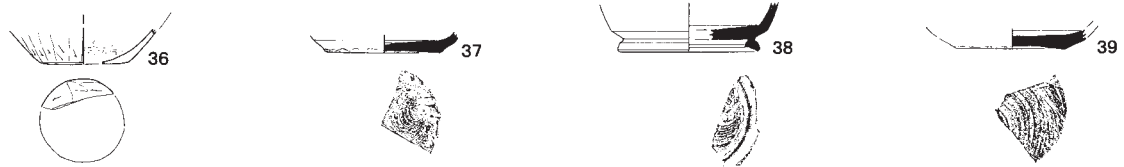
掘立柱建物跡 1



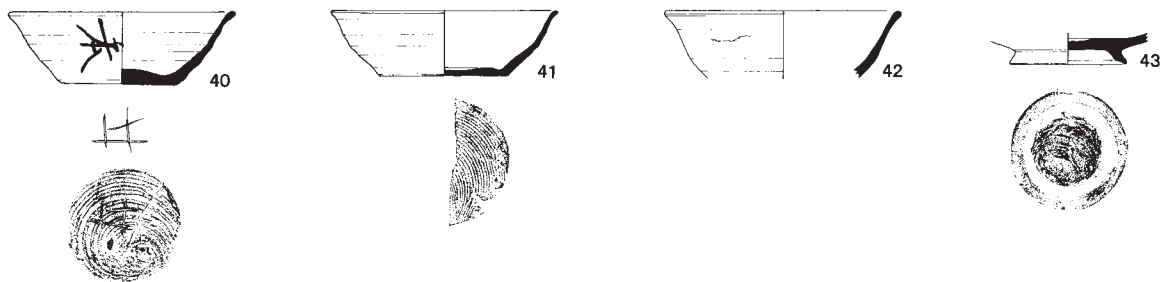
掘立柱建物跡 3



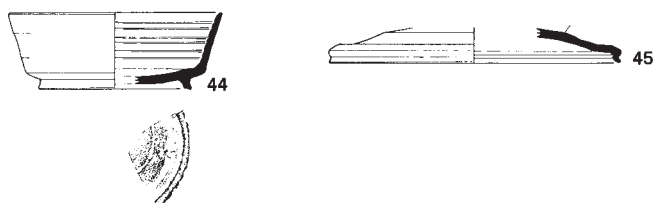
掘立柱建物跡 4



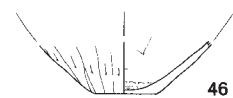
掘立柱建物跡 5



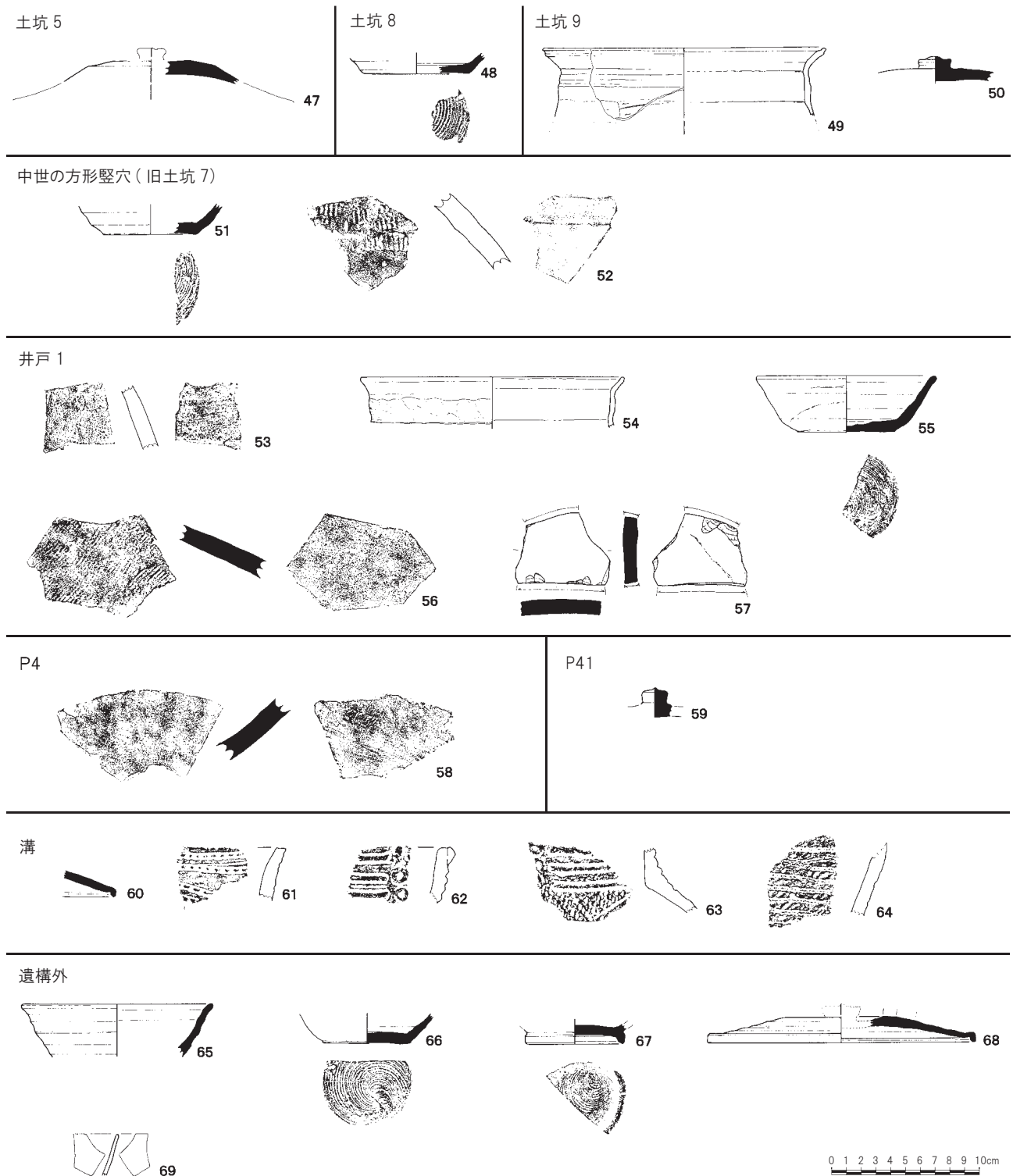
掘立柱建物跡 6



集石



0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10cm



第 102 図 川崎遺跡第 16 次出土遺物 (1/4) ③

第 63 表 川崎遺跡第 16 次出土遺物観察表 (単位 cm・g)

図版番号	出土遺構	種別・器種	口径・ 長さ	底径・ 幅	高さ・ 厚さ	重量	技法・文様・備考	時期・型式
第 100 図 -1	H43 号住居跡	須恵器碗	13.9	—	(4.6)	—	轆轤使用、口唇部使用による摩耗、胎土に海綿骨針片を含む、南比企窯産	9 世紀中葉
第 100 図 -2			6.6	—	(5.3)	—	轆轤使用、胎土に海綿骨針片を含む、南比企窯産	9 世紀中葉
第 100 図 -3		須恵器坏	13.7	3.5	10.1	—	轆轤使用、残存底部から回転ヘラケズリか、東金子窯産、内面に赤色顔料付着	8 世紀後葉
第 100 図 -4			12.8	—	(3.0)	—	轆轤使用、口縁部外面に若干煤付着、胎土は灰白色でやや軟質で海綿骨針片を含む、南比企窯産	9 世紀中葉
第 100 図 -5			11.6	—	(3.3)	—	轆轤使用、口縁部外面に若干煤付着、胎土は灰白色でやや軟質で海綿骨針片を含む、南比企窯産、4 と同一個体の可能性もある	8 世紀後葉
第 100 図 -6			12.3	—	(2.4)	—	轆轤使用、胎土に海綿骨針片含む、南比企窯産、2 と同一個体の可能性もある	9 世紀中葉
第 100 図 -7			—	8.3	(2.2)	—	轆轤使用、回転左、底部は回転糸切り離し、胎土に海綿骨針片を含む、南比企窯産	9 世紀中葉
第 100 図 -8			—	7.0	(2.0)	—	轆轤使用、回転右、底部は回転糸切り離し、胎土に海綿骨針片を含む、南比企窯産	9 世紀中葉
第 100 図 -9			—	—	—	—	轆轤使用、底部は回転糸切り離し、胎土に海綿骨針片を含む、南比企窯産	9 世紀中葉
第 100 図 -10			—	7.4	(1.1)	—	轆轤使用、回転右、底部は回転糸切り離し、東金子窯産	9 世紀中葉
第 100 図 -11			—	6.1	(1.5)	—	轆轤使用、回転右、底部は回転糸切り離し、胎土に海綿骨針片含む、南比企窯産	9 世紀中葉
第 100 図 -12		須恵器皿	—	17.3	(1.8)	—	轆轤使用、回転右、底部は回転糸切り離し、東金子窯産	9 世紀中葉
第 100 図 -13		須恵器蓋	17.0	—	(1.8)	—	轆轤使用、胎土に海綿骨針片を含む、南比企窯産	9 世紀
第 100 図 -14			16.0	—	(2.5)	—	轆轤使用、東金子窯産	9 世紀
第 100 図 -15			15.8	—	(1.7)	—	轆轤使用、胎土に海綿骨針を含む、南比企窯産	9 世紀
第 100 図 -16		須恵器壺	10.3	—	(9.5)	—	轆轤使用、胎土に海綿骨針を含む、南比企窯産	9 世紀中葉
第 100 図 -17		灰釉陶器長頸瓶	10.8	6.2	(8.5)	—	轆轤使用、肩部に灰釉、猿投窯産	9 世紀中葉
第 100 図 -18	H44 号住居跡	須恵器坏	—	6.4	(1.5)	—	轆轤使用、回転右、底部は回転糸切り離し、胎土に海綿骨針を含む、南比企窯産	9 世紀中葉
第 100 図 -19		灰釉陶器碗	—	6.6	(2.2)	—	轆轤使用、三日月形高台、内面の高台接地部を除き灰釉ハケ塗、猿投窯産、黒笹 90 号窯式の 2 型式	9 世紀後葉
第 100 図 -20		灰釉陶器瓶力	—	16.2	(3.0)	—	轆轤使用、肩部に灰釉、猿投窯産	9 世紀後葉
第 100 図 -21		縄文土器	—	—	—	—	波状口縁、地文 LR、波頂部に粘貼文	黒浜式期
第 100 図 -22	H45 号住居跡	土師器甕	—	—	(6.5)	—	口縁部・頸部横ナデ、胴部外面ヘラケズリ、内面ヘラナデ	8 世紀後葉
第 100 図 -23		須恵器坏	11.6	6.2	3.6	—	轆轤使用、右回転、底部は回転糸切り離しの後周縁部手持ちヘラケズリ、底部に「廿」または「井」のヘラ記号、内面見込みに糸の原体痕あり、胎土の海綿骨針片含む、南比企窯産、完形	8 世紀後葉
第 100 図 -24			11.2	—	(3.4)	—	轆轤使用、胎土黄褐色で酸化炎焼成、胎土に小礫含む	9 世紀前葉力
第 100 図 -25		須恵器甕	—	—	—	—	外面平行叩き、内面当て具痕、外面に自然釉が流れる、東金子窯産力	9 世紀前葉力
第 101 図 -26	H46 号住居跡	土師器甕	12.0	—	(6.3)	—	口縁部横ナデ、胴部外面横位から斜位のヘラケズリ、内面に僅かにおこげ痕	9 世紀末～ 10 世紀初
第 101 図 -27		須恵器皿	15.6	6.9	3.0	—	轆轤使用、右回転、底部は回転糸切り離し、焼成甘く胎土黄灰褐色、見込部が摩耗、胎土に海綿骨針片を含む、南比企窯産、ほぼ完形	9 世紀末～ 10 世紀初
第 101 図 -28	SB1	須恵器坏	—	7.4	(1.9)	—	轆轤使用、底部は回転糸切り離し、焼成甘い、胎土に海綿骨針片を含む、南比企窯産	9 世紀前葉
第 101 図 -29			—	8.0	(0.9)	—	轆轤使用、底部は回転糸切り離しの後周縁部回転ヘラケズリ、胎土の海綿骨針片を含む、南比企窯産	8 世紀中葉
第 101 図 -30			—	8.0	(1.1)	—	轆轤使用、底部は回転糸切り離しの後周縁部回転ヘラケズリ、胎土の海綿骨針片を含む、南比企窯産	8 世紀中葉
第 101 図 -31	SB3	須恵器蓋	—	—	—	—	轆轤使用、胎土に海綿骨針片を含む、南比企窯産	8 世紀後葉
第 101 図 -32		須恵器蓋	—	—	(2.2)	—	轆轤使用、上面は回転ヘラケズリ、南比企窯産力	9 世紀前葉
第 101 図 -33		須恵器甕	—	—	—	—	外面弱い平行叩き、内面当て具痕、外面に降灰	9 世紀前葉
第 101 図 -34		灰釉陶器瓶力	—	—	—	—	轆轤使用、肩部に灰釉、猿投窯産	9 世紀中葉
第 101 図 -35		須恵器坏	—	6.7	(2.9)	—	轆轤使用、底部は回転糸切り離し、胎土に海綿骨針片を含む、南比企窯産	9 世紀前葉

図版番号	出土遺構	種別・器種	口径・長さ	底径・幅	高さ・厚さ	重量	技法・文様・備考	時期・型式
第101図-36	SB4	土師器甕	—	3.4	(1.5)	—	外面縦位のヘラケズリ、内面ヘラナデ	8世紀後葉
第101図-37		須恵器坏	6.1	—	(1.1)	—	轆轤使用、右回転、底部は回転糸切り離し、東金子窯産	8世紀後葉
第101図-38		須恵器高台付坏	—	7.6	(2.6)	—	轆轤使用、底部は回転糸切り離し、高台は付高台、見込みの立ち上がりに爪先手法、東金子窯産	8世紀後葉
第101図-39		須恵器坏	—	5.9	(1.0)	—	轆轤使用、底部は回転糸切り離し、見込みの立ち上がりに爪先手法、一部酸化炎焼成、東金子窯産	8世紀後葉
第101図-40	SB5	須恵器坏	12.2	6.1	3.9	—	轆轤使用、右回転、底部は回転糸切り離し、胎土の海綿骨針片を含む、南比企窯産、底部に焼成前の「井」または「廿」のヘラ記号、体部の墨書は「禾」に「一」の合わせ字カ、口縁部の三角の欠損は廃棄に伴う可能性がある	9世紀中葉
第101図-41			12.0	6.	3.5	—	轆轤使用、底部は回転糸切り離し、東金子窯産、内面口縁部と見込みが摩耗	9世紀中葉
第101図-42		須恵器坏	12.5	—	(3.6)	—	轆轤使用、口縁部外面に若干煤付着、やや酸化炎焼成気味、南比企窯産	9世紀中葉
第101図-43		須恵器高台付皿	—	6.2	(1.7)	—	轆轤使用、底部は回転糸切り離し、高台は付高台、東金子窯産、見込みに摩耗	9世紀中葉
第101図-44	SB6	須恵器高台付坏	11.2	8.0	4.1	—	轆轤使用、底部は回転ヘラケズリの後付高台、見込みの立ち上がりに爪先手法、焼成良好、産地不明	8世紀中葉
第101図-45		須恵器蓋	15.6	—	(1.9)	—	轆轤使用、東金子窯産	8世紀後葉
第101図-46	集石	土師器甕	—	3.3	(2.8)	—	外面縦位のヘラケズリ、内面ヘラナデ	9世紀
第102図-47	土坑5	須恵器蓋	—	—	(2.5)	—	摘み欠損痕あり、轆轤使用、右回転、糸切り離しの後回転ヘラケズリ、胎土灰白色、南比企窯産カ	9世紀第
第102図-48	土坑8	須恵器坏	—	7.0	(1.4)	—	轆轤使用、底部は回転糸切り離し、酸化炎焼成、胎土に海綿骨針片を含む、南比企窯産	9世紀前葉
第102図-49	土坑9	土師器甕	19.2	—	(4.6)	—	口縁部は横ナデ、胴部は横位のヘラケズリ	9世紀中葉
第102図-50		須恵器蓋	—	—	(2.7)	—	轆轤使用、回転糸切り離しの後回転ヘラケズリ後摘み貼付、胎土に海綿骨針片を含む、南比企窯産	9世紀中葉
第102図-51	方形竪穴建物跡	須恵器坏	—	6.3	(2.0)	—	轆轤使用、底部は回転糸切り離し、胎土の海綿骨針片を含む、南比企窯産	9世紀後葉
第102図-52		渥美焼甕	—	—	—	—	外面押印	12世紀末～ 13世紀初
第102図-53	井戸1	常滑焼	—	—	—	—	甕胴部片カ	中世
第102図-54		土師器甕	17.8	—	(3.4)	—	口縁部横ナデ	9世紀前葉
第102図-55		須恵器坏	12.3	6.6	3.8	—	轆轤使用、回転右、底部は回転糸切り離し、胎土に海綿骨針片を含む、南比企窯産	9世紀中葉
第102図-56		須恵器甕	—	—	—	—	肩部片、外面平行叩き目、内面当て具痕をナデ、胎土に海綿骨針片を含む、南比企窯産	9世紀前葉
第102図-57		須恵器転用砥石	4.9	6.4	0.9	—	頸部片	9世紀前葉
第102図-58	ビット4	須恵器甕	—	—	—	—	内外面ナデ調整、南比企窯産カ	9世紀
第102図-59	ビット41	須恵器蓋	—	—	(2.0)	—	宝珠部片	9世紀
第102図-60	溝2	須恵器蓋	—	—	—	—	轆轤使用、南比企窯産カ	9世紀
第102図-61		縄文式土器	—	—	—	—	波状口縁、爪型文、胎土に繊維を含む	黒浜式期
第102図-62		縄文式土器	—	—	—	—	口縁部、半裁竹管による平行沈線、円形刺突文	諸磯式期
第102図-63		縄文式土器	—	—	—	—	附加条縄文、胎土に繊維を含む	黒浜式期
第102図-64		縄文式土器	—	—	—	—	地文 RL、平行沈線による三角文	諸磯式期
第102図-65	遺構外	須恵器坏	13.0	—	(3.6)	—	轆轤使用、回転右、底部は回転糸切り離し、胎土の海綿骨針片を含む、南比企窯産	9世紀
第102図-66			—	5.8	(2.1)	—	轆轤使用、体部内外面に火禿痕、胎土に海綿骨針片を含む、南比企窯産	9世紀後葉
第102図-67		須恵器高台付坏	—	6.6	(1.3)	—	轆轤使用、底部は回転糸切り離しの後付高台、胎土に海綿骨針片を含む、南比企窯産	9世紀
第102図-68		須恵器蓋	18.2	—	(1.2)	—	轆轤使用、回転糸切り離しの後回転ヘラケズリ、下面に降灰、東金子窯産	9世紀
第102図-69		西洋陶器皿	—	—	—	—	顔料酸化コバルト	幕末～明治

II 川崎遺跡第 16 次調査からふじみ野市の古代を復元する試み

はじめに

川崎遺跡第 16 次調査の報告をするにあたり、市内の遺跡について学ぶ機会が頂けた。その好機を生かし、ふじみ野市及びその周辺の古代律令期の様相の復元を試みた。

本稿は、市内各地の遺跡に散らばる点の情報を集め、つなぎ合わせ、見つからないところは推論を交えて、古代の姿を蘇らせようとする甚だ拙い試みである。

1. 川崎遺跡第 16 次調査の概要（本文第 88 図参照）

最初に、川崎遺跡 16 次調査の内容を確認しておきたい。

本調査で最も古い遺構は 8 世紀後葉に位置づけられる H45 号住居である。

9 世紀初頭頃になると、SB2・SB4・SB6 号掘立柱建物が構築される。この段階で H45 号住居は廃絶されていたと考える。なぜなら、SB6 号掘立柱建物の西側近くに H45 号住居のカマドが位置し、同時存在したとすれば SB6 号掘立柱建物が火災になる可能性が高いからである。SB5 号掘立柱建物は、柱穴から完形で出土した遺物の年代から 3 棟の建物よりやや遅れると判断した。

9 世紀中頃になり、SB4 号掘立柱建物が SB3 号掘立柱建物に、SB2 号掘立柱建物が SB1 号掘立柱建物に建て替えられる。SB5 号掘立柱建物については調査区内で建て替えの痕跡がみられないことから、この時期にも残った可能性がある。また、竪穴住居の H43 号住居はこの時期に存在したと考える。同住居は 9 世紀後半代の中で位置を少し北に移し H44 号住居に建て替えられている。

この時期の遺物として、H43・H44 号住居及び SB3 号掘立柱建物からは 9 世紀中葉から後葉の猿投産灰釉陶器が出土する。なお、SB5 号掘立柱建物の鬼門の北東隅の柱穴から底面に「井」又は「开（井の楷書）」のへう描きと体部外面に「禾に一」の墨書須恵器坏が出土しており、H45 号住居の覆土から類似のへう描きの須恵器坏が出土している点は注目される。

9 世紀末から 10 世紀初頭になると、カマド跡だけが検出された H46 号住居が建てられるが、重複する SB5 号掘立柱建物はその時点で解体されていたことになる。おそらく、SB1・SB3 号掘立柱建物も、あまり時間差なく解体されたと考えられようか。

今回の川崎遺跡 16 次調査では、古代において「屋」と呼ばれた側柱建物が、2 時期に亘って南北、東西方向に直線的に配置され発見された。また遺物では東海産灰釉陶器の瓶・皿が出土している。

川崎遺跡 16 次調査の成果については、今回の調査だけでなくこれまでの調査成果も踏まえると、いわゆる「一般的な集落とは異なる官衙的な遺跡」の様相を呈していると言えそうである。

そこでここでは、この 16 次調査を含む川崎遺跡全体や周辺遺跡が、この地域にとってどのような歴史的な背景を有するのか、検証の範囲を広げながら考えてみたいと思う。

まずは、ふじみ野市内で古代律令期の遺構が多く検出されている新河岸川沿いの遺跡群の様相を調べてみたい。

2. 新河岸川沿いの古代律令期の遺跡

遺構・遺物の変遷をみるために、8 世紀前半から 10 世紀前半までを 4 期に分けて概観してみたい（図 1）。なお、遺構・遺物については既刊報告書を参照願いたい。

1 期 8 世紀前半

2 期 8 世紀後半～9 世紀初頭

3 期 9 世紀前葉

4期 9世紀中頃～10世紀前半

1期の遺構は、松山遺跡を主とし、新河岸川沿いの滝遺跡、権現山遺跡、ハケ遺跡に点在する。松山遺跡は新河岸川から少し内陸に入るが南に新河岸川支流の江川が面し、東に沼（赤沼・現水天宮公園周辺）をもつ。遺構では鍛冶関連遺構が注意される（24地点土坑1、松山100地点H53住）。

遺物では湖西産須恵器（滝17地点H23、松山100地点H53住）が入ってきており、生業等に関わる鉄製鋤先（権現山2住）、土製紡錘車（権現山2住、滝15地点H20住）、土製錘（滝26地点H43住、松山1次2住ほか）も散見される。またこの時期では希少な墨書土器（松山遺跡93地点H50住「子子」）は特記される。

2期になると、松山遺跡の江川の対岸の福岡新田遺跡で1期の「子」を三つ連ねた墨書土器が出ている。この時期に新河岸川上流の川が大きく蛇行するところの川崎遺跡で竪穴住居が出現する。川崎遺跡も西に沼（西沼）をもつ。2期は後半で掘立柱建物が松山遺跡を中心にして広く展開する（松山22次・45地点・55地点・56地点・65地点、滝21地点、ハケC2次）。松山遺跡ではこの時期にも鍛冶関連遺構（滝21地点H31住・松山49地点H36住）が見られ、大型井戸（12次1号井戸）が出現する。ハケ遺跡では解体された馬骨が入れられた井戸が出ている（7地点井戸1）。

この時期を特徴づけるのは相模型坯の顕著な出土である（滝2次5住・14地点H13住、松山40地点H33住、ハケC1次8住、川崎26地点H54住・宅地添4次3住）。数は少ないが甲斐型坯（滝21地点土坑4）の出土もある。ハケ遺跡の銚帯（C4次33住）や滝遺跡のコップ形須恵器（2次4住）など官衙的な遺物が見られる。他に仏教的色彩の強い獣脚付須恵器壺（松山56地点土坑1）や鉄鉢形須恵器（松山15次9住）など有力者の存在を示唆するような遺物の出土もある。

3期では、2期まで官衙的な性格の遺構・遺物が多く見られた松山遺跡が、3期の9世紀第2四半期頃に急激に衰退する。それと入れ替わるように川崎遺跡で掘立柱建物（川崎16次2・4・6号）や鍛冶関連遺構（2次）が出現し、緑釉陶器の優品も見られるようになり有力者の存在を暗示させる（15次2住・7住）。

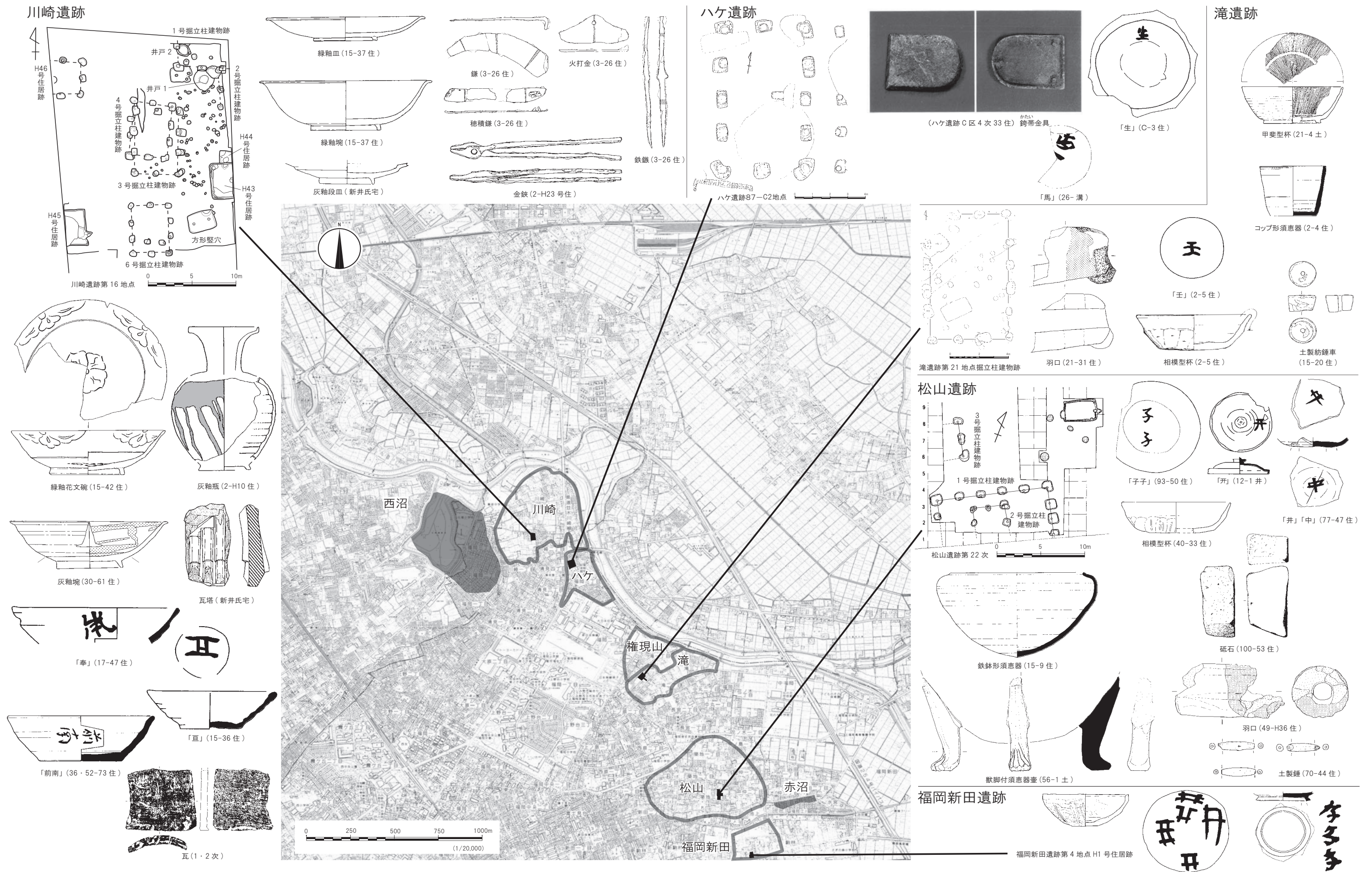
4期になると、遺構は川崎遺跡にほぼ限られてくる。また、川越市域であるが西沼（現寺尾遊水池）の対岸の寺尾地区で国分寺瓦を葺く堂宇が建てられ、周囲に集落が形成されるようである。おそらく沼を挟んで関連する遺跡群と考えられる。川崎遺跡西側の沼に近い場所（新井氏宅）では曳舟の水路と推定できる遺構が確認され、瓦塔（新井氏宅）が出土する。また、その約100m東では瓦（1次・2次・9次・32地点H65住）が出土する場所がある。

掘立柱建物は、現在までのところ氷川神社の北側に一つのまとまり（16次）が確認されているが、その北東や北の地域（25・26・28・30地点）でも検出され始めている。16次調査の掘立柱建物はこの時期の始めに解体され、同じ場所ないし列に建て替えられている（川崎16次SB1・3号）。

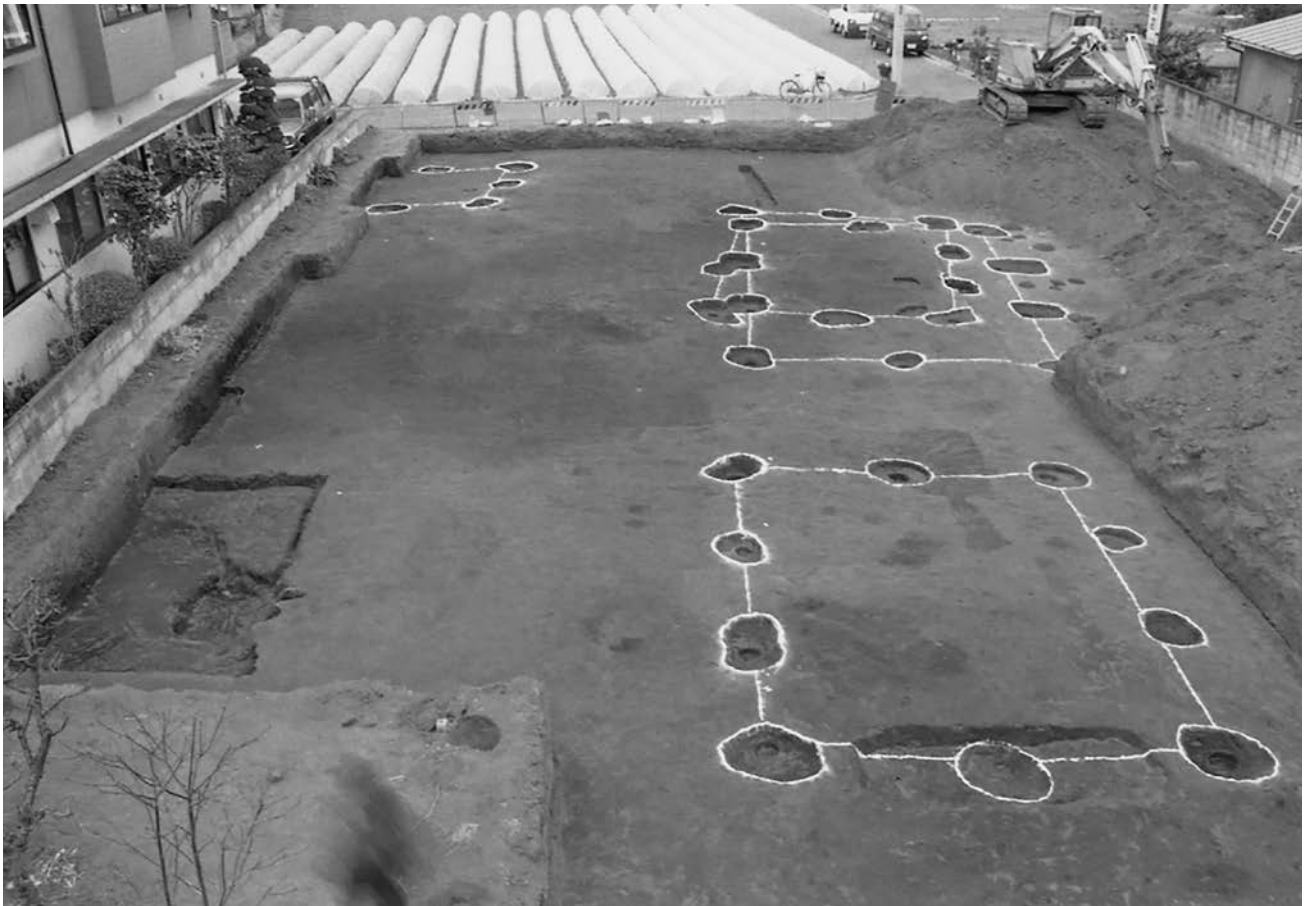
遺物では灰釉陶器（川崎2次H10住・16地点・30地点H61住）が器種豊富に出土し、鍛冶関連遺物（川崎2次H23住）や種類豊富な鉄製品（川崎3次2住）の出土がある。

以上から、当地の古代律令期の歴史を明らかにするうえで解決すべき問いが見えてきた。それが次の5点である。

- 問1. 8世紀前半に松山遺跡・滝遺跡の集落が形成されるのはなぜか。
- 問2. 鍛冶工房やそれに関連する遺物が多いのはなぜか。
- 問3. 官衙や豪族層の存在を示すような遺物が出るのはなぜか。
- 問4. 8世紀中頃から後半かけて、相模型坯・甲斐型坯が出土するのはなぜか。
- 問5. 9世紀前半に、松山遺跡が衰退し、川崎遺跡が勃興するのはなぜか。



第1図 新河岸川沿いの掘立柱建物と主な遺物 (1/20,000)



川崎遺跡第 16 次調査区全景 (古代)



川崎遺跡第 16 次調査区全景



川崎遺跡第 16 次 H43・44 号住居跡 (北から)



川崎遺跡第 16 次 H43 号住居跡竈遺物出土状況



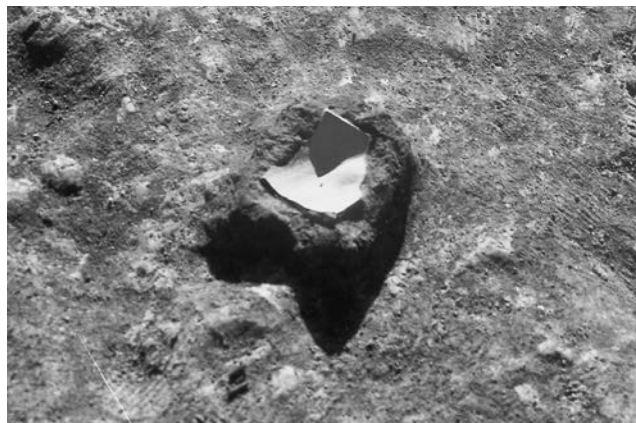
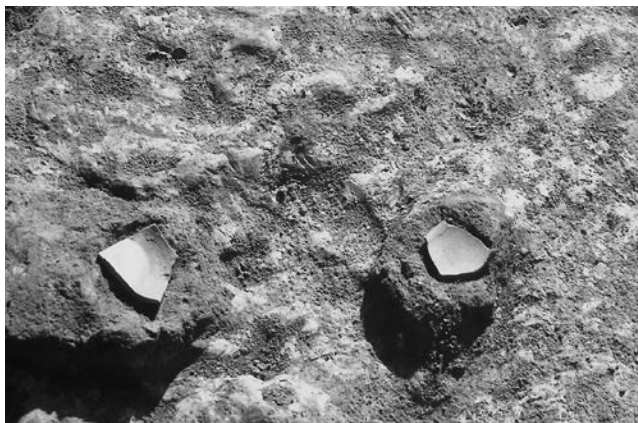
川崎遺跡第 16 次 H43 号住居跡



川崎遺跡第 16 次 H43 号住居跡遺物出土状況



川崎遺跡第 16 次 H43 号住居跡遺物出土状況 No. 16



川崎遺跡第 16 次 H43 号住居跡遺物出土状況No. 2・8

川崎遺跡第 16 次 H43 号住居有跡遺物出土状況No. 17



川崎遺跡第 16 次 H45 号住居跡遺物出土状況No. 23・25



川崎遺跡第 16 次 H45 号住居跡遺物出土状況No. 23



川崎遺跡第 16 次 H45 号住居跡遺物出土状況No. 25



川崎遺跡第 16 次掘立柱建物跡 1・2



川崎遺跡第 16 次掘立柱建物跡 1・2、井戸 1・2、ピット群



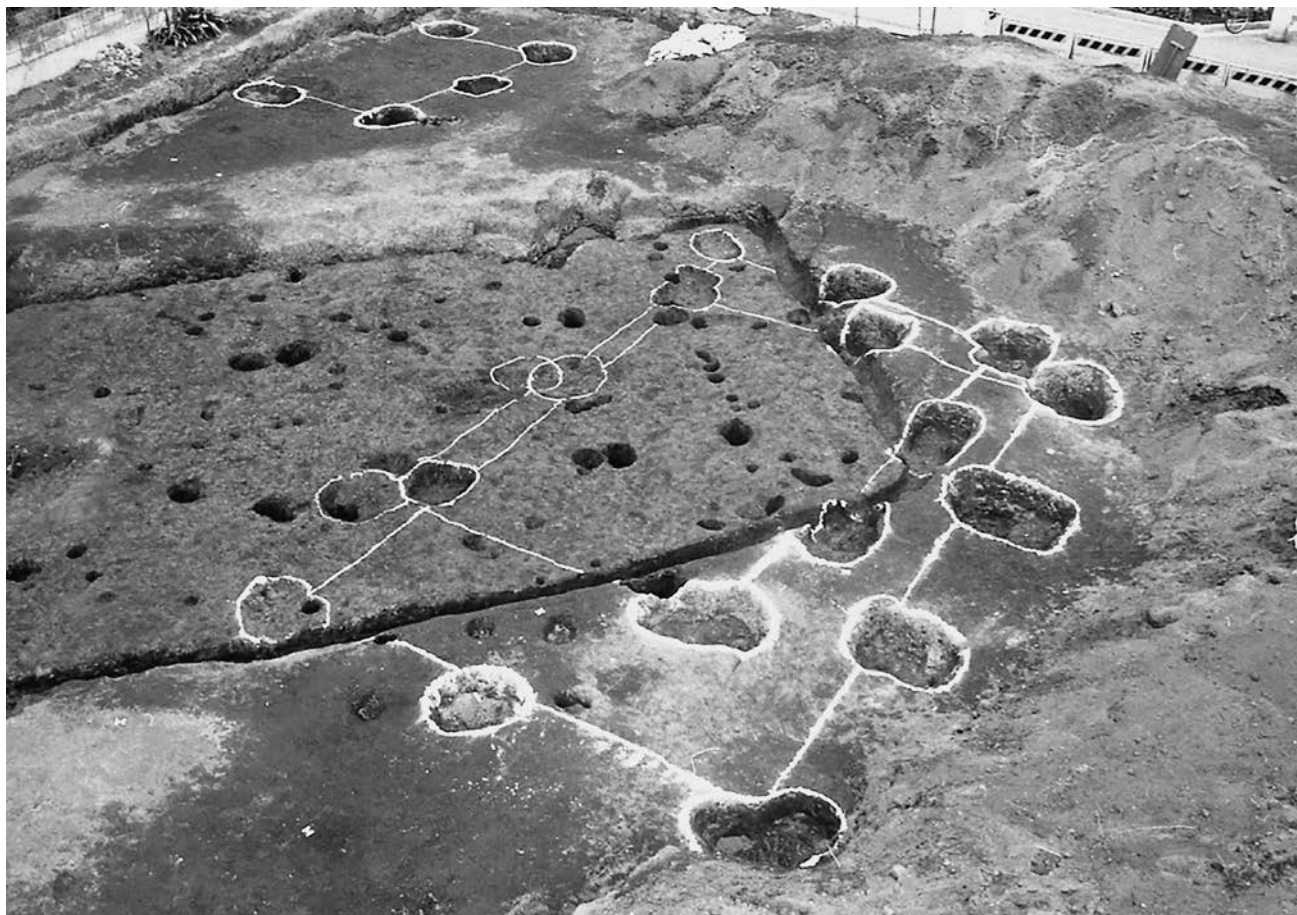
川崎遺跡第 16 次掘立柱建物跡 1



川崎遺跡第 16 次掘立柱建物跡 1 ピット 3 土層



川崎遺跡第 16 次掘立柱建物跡 1 ピット 6



川崎遺跡第 16 次掘立柱建物跡 3・4(南東から)



川崎遺跡第 16 次掘立柱建物跡 3・4(南から)



川崎遺跡第 16 次掘立柱建物跡 3・4(東から)



川崎遺跡第 16 次掘立柱建物跡 3・4



川崎遺跡第 16 次掘立柱建物跡 3 ピット 8



川崎遺跡第 16 次掘立柱建物跡 5、H46 号住居跡竈（東から）



川崎遺跡第 16 次掘立柱建物跡 5、H46 号住居跡竈



川崎遺跡第 16 次掘立柱建物跡 5 ピット 1



川崎遺跡第 16 次掘立柱建物跡 5 ピット 2



川崎遺跡第 16 次掘立柱建物跡 5 ピット 3



川崎遺跡第 16 次掘立柱建物跡 6 (東から)



川崎遺跡第 16 次掘立柱建物跡 6 (南から)



川崎遺跡第 16 次 H43・44 号住居跡、方形竪穴建物跡、ピット群



川崎遺跡第 16 次方形竪穴建物跡（北から）



川崎遺跡第 16 次方形竪穴建物跡（東から）



川崎遺跡第 16 次方形竪穴建物跡



川崎遺跡第 16 次方形竪穴建物跡土層



川崎遺跡第 16 次掘立柱建物跡 1・2、土坑 2・4・6、ピット群、井戸 1・2



川崎遺跡第 16 次掘立柱建物跡 1(南から)



川崎遺跡第 16 次井戸 1



川崎遺跡第 16 次調査風景①



川崎遺跡第 16 次調査風景②



川崎遺跡第 16 次調査風景③

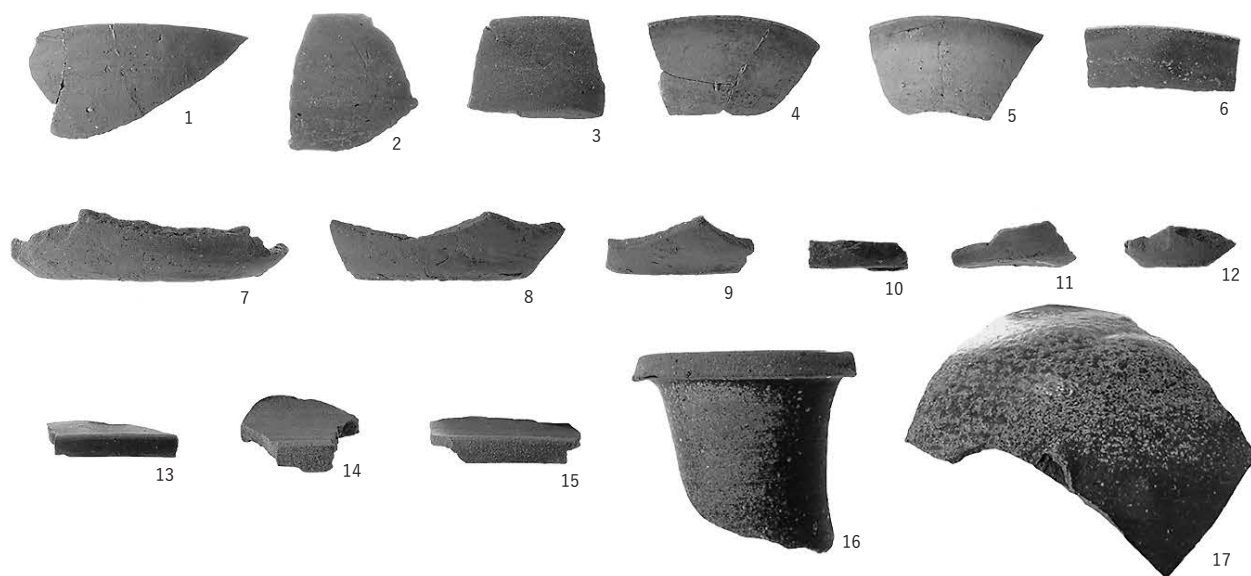


川崎遺跡第 16 次調査区全景



川崎遺跡第 16 次調査区全景

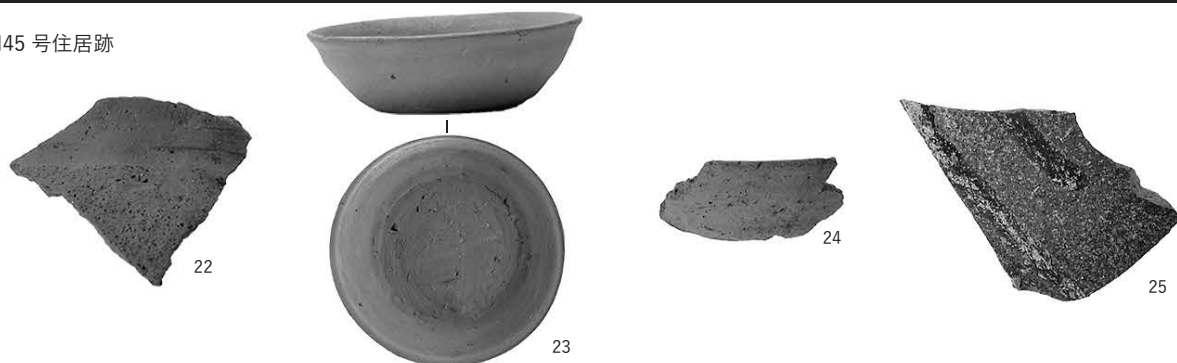
H43 号住居跡



H44 号住居跡



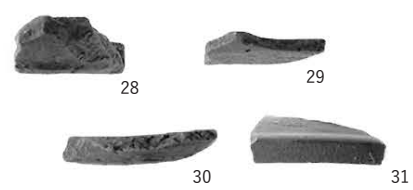
H45 号住居跡



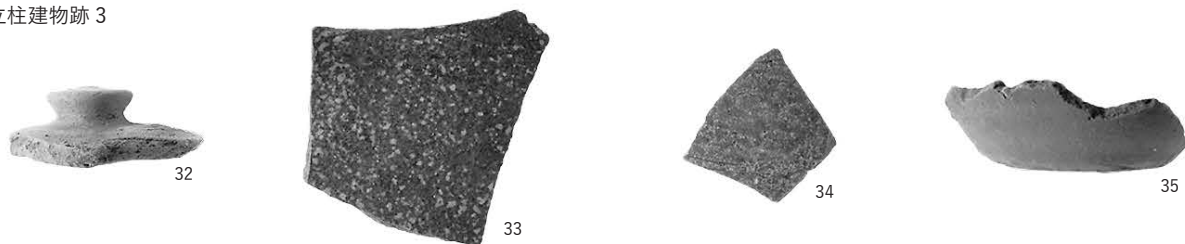
H46 号住居跡



掘立柱建物跡 1



掘立柱建物跡 3



掘立柱建物跡 4



掘立柱建物跡 5



掘立柱建物跡 6



集石



土坑 5



土坑 8



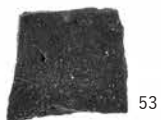
土坑 9



方形竪穴建物跡



井戸 1



ビット 4



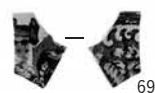
ビット 41

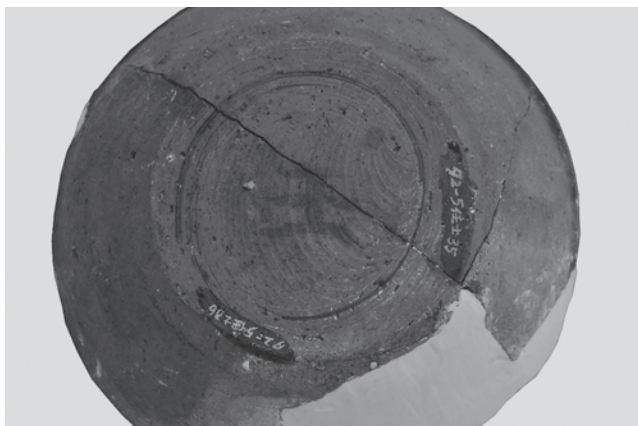


溝

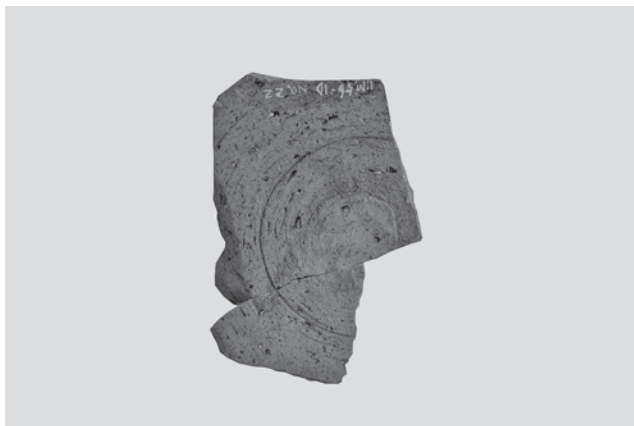


遺構外





④滝遺跡第 2 次 5 号住居跡「壬」



⑥松山遺跡第 56 地点土坑 1「入」



⑨松山遺跡第 12 次井戸「中」



⑩福岡新田遺跡第 4 地点 H1 号住居跡「子子子」



⑪福岡新田遺跡第 4 地点 H1 号住居跡「中・井・开」



⑬松山遺跡第 22 次掘立柱建物跡「子子子」



⑳川崎遺跡第 15 次 H39 号住居跡「奉」



㉑川崎遺跡第 17 次 H47 号住居跡「奉」



㉒川崎遺跡第 15 地点 H36 号住居跡「五」



⑬松山遺跡第 16 次 H10 号住居跡「万・千」



⑰神明後遺跡第 28 地点 H2 号住居跡「十万」



⑱川崎遺跡第 30 地点 H62 住居跡「用」



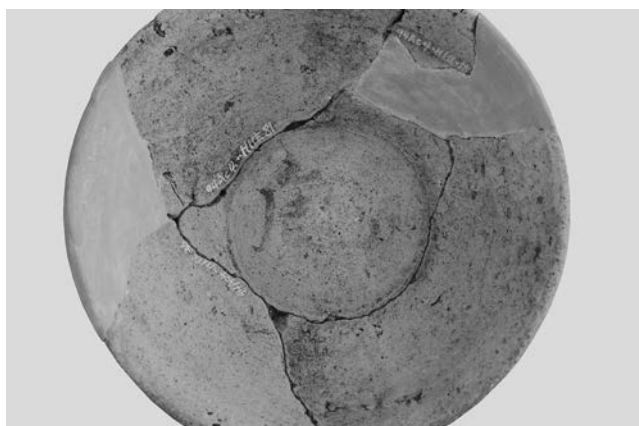
⑳ハケ遺跡第 26 地点溝「馬」



㉑東久保南遺跡第 4 地点 H1 号住居跡「厩」



㉒川崎遺跡第 52 地点 H73 号住居跡「前南」



㉓東久保南遺跡第 4 地点 H1 号住居跡「厩」底部



㉔東久保南遺跡第 4 地点 H1 号住居跡「奉」



3 片口土器

(上福岡貝塚K地点／縄文時代前期／山内清子氏蔵・東京国立博物館写真提供／第2－6図／重要文化財)



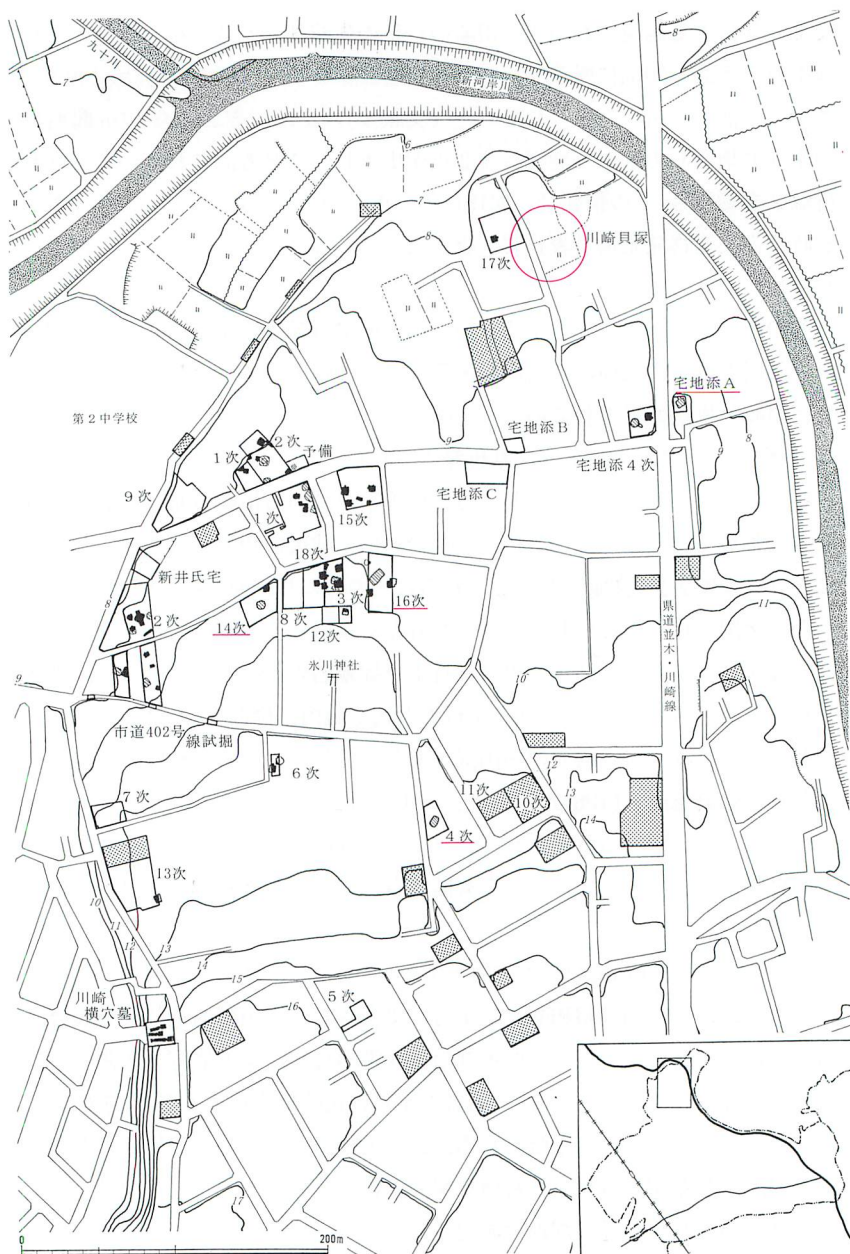
4 大正5年発見の磨製石斧

(川崎遺跡／縄文時代前期／東京大学総合研究博物館蔵／第3－78図)



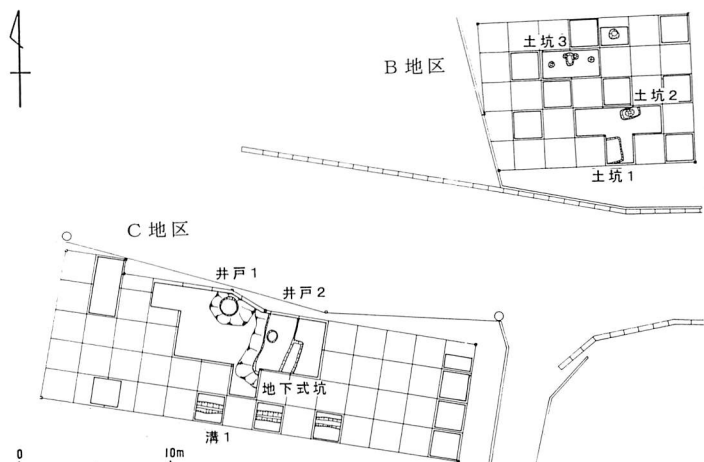
5 炉を二つ設けた大形住居跡 (川崎遺跡第16次／縄文時代前期／未収録)

Ⅱ 考 古

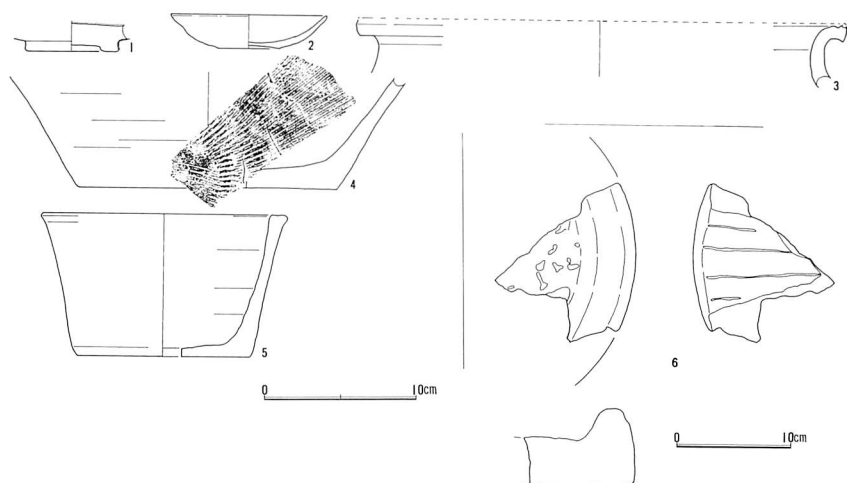


第3-1図 川崎遺跡調査地点全体図〈1/5000〉(赤線:貝塚)

Ⅱ 考 古



第3-99図 川崎遺跡宅地添B・C地区遺構配置図〈1/500〉



第3-100図 川崎遺跡第3次・宅地添地区出土土器〈1/5・3/20〉

したもの以外では肥前産染付、瓦質焙烙などがあり、近世のものが多い（文献 本書）。

川崎遺跡第16次調査

遺構は方形竪穴状遺構2基、井戸跡1基、溝が確認されている。方形竪穴は約3×2.5mで、柱穴を持ち中世特有の形態である（文献67・92）。